

Unica Campaign V12.1 アップグレード・ガイド



目次

第 1 章. アップグレードの概要	1
Campaign 分析サーバーのインストールの計画 (フローチャートまたは Optimize セッション実行機能を使用).....	1
アップグレード・ロードマップ.....	2
インストーラーの機能.....	5
インストールのモード.....	6
サンプル応答ファイル.....	6
アップグレード・インストールが失敗した場合のレジストリー・ファイルの修正.....	7
第 2 章. Unica キャンペーンと Unica Optimize のアップグレードの計画	9
前提条件.....	9
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 置換する PredictiveInsight.....	11
Unica Campaign のバックアップ.....	12
構成設定のエクスポート.....	12
アップグレード前チェック・ユーティリティー.....	12
アップグレード・ログ.....	14
全 Unica 製品に関するアップグレード前提条件.....	14
以下の自動コミット要件: Oracle または DB2®.....	15
ユーザー定義のグループ名および役割名の変更.....	15
Unica Campaign アップグレード・ワークシート.....	16
第 3 章. Unica Campaign および Unica Optimize のアップグレード	17
メモリーからの未使用ファイルのアンロード (AIX® のみ).....	25
Unica Campaign のアンデプロイとアップグレード.....	25
SQL アップグレード・スクリプト.....	27
acUpgradeTool.....	27
アップグレード・ツールの環境変数の設定.....	28
acUpgradeTool の実行.....	28
第 4 章. Deliver へのアップグレードに関する考慮事項	30
Unica Deliver の構成.....	30
第 5 章. Unica Campaign Web アプリケーションの配置	31
Web アプリケーションのセッション・タイムアウトの設定.....	31
WebSphere Application Server への Unica Campaign の配置.....	31

WAR ファイルから WAS への Campaign の配置.....	32
EAR ファイルから WAS への Campaign の配置.....	33
WebLogic への Unica Campaign の配置.....	34
SSL 環境に必要な追加の構成.....	35
レポートを表示するように WebLogic を構成する (UNIX).....	35
Unica Campaign サーバーの始動.....	36
Unica Campaign リスナーの手動による始動.....	36
Unica Campaign リスナーを Windows サービスとしてインストールする方法.....	36
第 6 章. 配置後の Unica Campaign および Unica Optimize の構成.....	38
Unica Optimize 構成プロパティを手動で設定する.....	38
Unica Campaign リスナーが稼働中であるかどうかの検査.....	39
Unica Campaign システム・ユーザーのセットアップ.....	39
「構成」ページでのデータ・ソース・プロパティの追加.....	40
データ・ソース・テンプレートのインポート.....	41
データ・ソース・テンプレートの複製.....	41
Unica Campaign 構成プロパティ.....	42
Unica Campaign でのユーザー・テーブルのマッピング.....	43
Unica Optimize のテーブルのマッピング.....	44
Unica Optimize システム・テーブル・マッピングのリファレンス.....	44
Unica Optimize コンタクト履歴テーブル・マッピングのリファレンス.....	45
Unica Campaign のインストールの検証.....	46
Unica Optimize のインストールの検証.....	46
フローチャートを検索可能にしておく.....	47
Unica 製品との統合のためのプロパティの設定.....	47
セキュリティ強化のための追加構成.....	47
X-Powered-By フラグを無効にする.....	47
制限された Cookie パスの構成.....	48
Unica Campaign 詳細検索エージェントの開始.....	48
第 7 章. Unica Campaign の複数パーティションの構成.....	50
複数パーティションの動作.....	50
複数のパーティションのセットアップ.....	51
パーティション・スーパーユーザー.....	53

パーティションのデータ・ソース・プロパティの構成.....	53
Unica Campaign のシステム・ユーザーのセットアップ.....	55
複数のパーティションがある場合の IBM Cognos Reports の使用.....	55
パーティションへの役割、権限、およびグループの割り当て.....	55
第 8 章. Unica Optimize の複数パーティションの構成.....	57
複数パーティションの動作.....	57
Unica Optimize の複数パーティションのセットアップ.....	58
第 9 章. Unica Deliver での複数のパーティションの構成.....	59
Unica Deliver のパーティション概要.....	59
Unica Deliver に複数のパーティションを構成するためのロードマップ.....	60
Unica Deliver の新規パーティションの作成.....	61
パーティション用の Unica Deliver システム・テーブルの準備.....	62
手動による Unica Deliver システム・テーブルの作成とデータ設定.....	63
HCL Unica にアクセスするシステム・ユーザーの構成.....	64
Unica Campaign で新規パーティションに対応するように Unica Deliver を使用可能にする.....	65
Unica Deliver の受信者リスト・アップローダーの場所の指定.....	66
Unica Deliver を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動.....	66
Unica Deliver パーティションの構成および接続のテスト.....	67
第 10 章. Unica Platform ユーティリティー.....	68
ユーティリティー.....	70
alertConfigTool.....	70
configTool.....	70
datafilteringScriptTool.....	75
encryptPasswords.....	76
partitionTool.....	77
populateDb.....	80
restoreAccess.....	80
scheduler_console_client.....	82
Unica Deliver レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) スクリプト.....	84
MKService_rct スクリプト.....	85
第 11 章. Unica Campaign および Unica Optimize のアンインストール.....	87
第 12 章. Unica Campaign Web アプリケーション・クラスタリング.....	89

WebSphere クラスター化ガイドライン.....	90
ehcache の構成.....	92
第 13 章. クラスター化リスナー環境へのアップグレード.....	95
サポートされるクラスター化リスナー構成.....	99
リスナー・クラスタリングの図.....	100
クラスター化リスナーの共有ネットワーク・ロケーション: campaignSharedHome.....	101
索引.....	

第1章. アップグレードの概要

Unica キャンペーン および Unica Optimize のアップグレードは、Unica キャンペーン および Unica Optimize をアップグレード、構成、およびデプロイ構成するときに完了します。Unica キャンペーン および Unica Optimize のアップグレード、構成、およびデプロイに関する詳細情報は、「キャンペーンアップグレード・ガイド」で参照できます。

『アップグレード・ロードマップ』セクションを使用すると、「Unica キャンペーン インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

v12.0 から - Unica Campaign インストーラーは Unica Optimize をインストールします。Unica Campaign のインストールとともに、デフォルトでインストールされます。Optimize は Campaign とともにデフォルトでインストールされますが、Optimize セッションを実行するにはライセンスをインストールする必要があります。技術サポート・チームと連絡を取り、Optimize のライセンスを取得します。

v12.1 - Campaign リスナーは、Campaign フローチャートと Optimize セッションの実行をサポートします。Campaign 分析サーバー (リスナー) のインストール中 - ユーザーは、インストールするリスナーのタイプを選択できます。

- Optimize セッションのみを実行
- Campaign フローチャートを実行
- Optimize セッションと Campaign フローチャートを実行

Campaign 分析サーバーのインストールの計画 (フローチャートまたは Optimize セッション実行機能を使用)

Unica Campaign 分析サーバー (リスナー) は、Campaign フローチャートの実行または Optimize セッションの実行、あるいはその両方を実行することができます。Unica Campaign 分析サーバーまたは既存の Optimize リスナー・インストールの以前のサポートされるバージョンからのアップグレードを開始する前に、以下の注を参照してください。Unica Campaign 分析サーバーまたは既存の Optimize リスナー・インストールの以前のサポートされるバージョンからのアップグレードを開始する前に、以下の表を参照してください。

Campaign リスナーと Optimize リスナーがインストールされている単一マシンでの Unica Campaign リスナーのアップグレード。	Unica Campaign リスナーのみのアップグレード	Unica Optimize リスナーのアップグレード
<ul style="list-style-type: none">• Campaign リスナーのアップグレード中に、リスナー・ノード・タイプに「Campaign フローチャートと Optimize セッション	<ul style="list-style-type: none">• Campaign リスナーのアップグレード中に、リスナー・ノード・タイプに「Campaign フローチャートのみを実行」を選択します。• これにより、単一 Campaign リスナー (非ク	<ul style="list-style-type: none">• Optimize リスナーのアップグレード中に、リスナー・ノード・タイプに「Optimize セッションのみを実行」を選択します。• これにより、単一 Campaign リスナー (非クラスター) がインストー

<p>の両方を実行」を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> これにより、単一 Campaign リスナー (非クラスター) がインストールされ、このリスナーは、Optimize セッションと Campaign フローチャートの両方を実行できます。 	<p>ラスター) がインストールされ、このリスナーは Campaign フローチャートのみを実行できます。</p>	<p>ルされ、このリスナーは Optimize セッションのみを実行できます。</p>
---	---	---

Campaign リスナー・ノードの選択を「Optimize セッションのみを実行」にして、Optimize リスナーがインストールされている環境をアップグレードする必要があります。パスを指定する際、ユーザーは Campaign ホームに `Optimize_Home` のパスを指定する必要があります。これは、以前のバージョンを検出し、アップグレードを実行するのに役立ちます。Optimize リスナー・ノードで、新しい場所にインストールし、`Optimize_Home/partitions/partition[n]/reports` および `logs` ディレクトリーを新しいインストールにコピーすることもできます。

リスナー・ノード・タイプは、Campaign 分析サーバー・クラスター・モードのインストールにも適用できます。ユーザーは、登録済みリスナー・ノードの下の構成を変更することで、リスナー・ノード・タイプをいつでも変更できます。

アップグレード・ロードマップ

Unica キャンペーン および Unica Optimize のアップグレードに必要な情報を素早く探すのに、アップグレード・ロードマップを使用してください。

以下の表を使用して、Unica キャンペーン および Unica Optimize のアップグレードに際して完了している必要のあるタスクを調査できます。

表 1. Unica Campaign および Unica Optimize アップグレード・ロードマップ

トピック	情報
Unica Campaign Web アプリケーション・クラスタリング(89 ページ)	Web アプリケーション・クラスタリングを使用している場合、インストールを開始する前にこの付録を確認してください。
クラスター化リスナー環境へのアップグレード(95 ページ)	Unica Campaign リスナー・クラスタリングを使用している場合、インストールを開始する前にこの付録を確認してください。
アップグレードの概要(1 ページ)	このトピックには、以下の情報が含まれています。

表 1. Unica Campaign および Unica Optimize アップグレード・ロードマップ

(続く)

トピック	情報
Unica キャンペーンと Unica Optimize のアップグレードの計画(9 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> • インストーラーの機能(5 ページ) • インストールのモード(6 ページ) • 「Campaign インストール・ガイド」のトピック「Unica Campaign と Unica Deliver を含む Campaign の統合」 <p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p>
Unica Campaign および Unica Optimize のアップグレード(17 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> • 前提条件(9 ページ) • Unica Campaign のバックアップ(12 ページ) • 構成設定のエクスポート(12 ページ) • アップグレード前チェック・ユーティリティ(12 ページ) • アップグレード・ログ(14 ページ) • 全 Unica 製品に関するアップグレード前提条件(14 ページ) • Unica Campaign アップグレード・ワークシート(16 ページ) <p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p>
Deliver へのアップグレードに関する考慮事項(30 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> • Unica Campaign のアンデプロイとアップグレード(25 ページ) • SQL アップグレード・スクリプト(27 ページ) • acUpgradeTool(27 ページ) <p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unica Deliver をアップグレードするための前提条件(ページ) • Unica Deliver の構成中(ページ)
Unica Campaign Web アプリケーションの配置(31 ページ)	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Web アプリケーションのセッション・タイムアウトの設定(31 ページ) • WebSphere Application Server への Unica Campaign の配置(31 ページ) • WebLogic への Unica Campaign の配置(34 ページ) • Unica Campaign サーバーの始動(36 ページ)
配置後の Unica Campaign および Unica Optimize の構成(38 ページ)	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p>

表 1. Unica Campaign および Unica Optimize アップグレード・ロードマップ

(続く)

トピック	情報
複数パーティションの動作(50 ページ)	<ul style="list-style-type: none">• Unica Campaign リスナーが稼働中であるかどうかの検査(39 ページ)。• Unica Campaign システム・ユーザーのセットアップ(39 ページ)• 「構成」ページでのデータ・ソース・プロパティの追加(40 ページ)• Unica Campaign 構成プロパティ(42 ページ)• Unica Campaign でのユーザー・テーブルのマッピング(43 ページ)• Unica Campaign のインストールの検証(46 ページ)• フローチャートを検索可能にしておく(47 ページ)• Unica 製品との統合のためのプロパティの設定(47 ページ)
Unica Deliver での複数のパーティションの構成(59 ページ) 。	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">• パーティション・スーパーユーザー(53 ページ)• 複数のパーティションのセットアップ(51 ページ)• パーティションへの役割、権限、およびグループの割り当て(55 ページ) <p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">• Unica Deliver のパーティション概要(59 ページ)• Unica Deliver に複数のパーティションを構成するためのロードマップ(60 ページ)• Unica Deliver の新規パーティションの作成(61 ページ)• パーティション用の Unica Deliver システム・テーブルの準備(62 ページ)• HCL Unica にアクセスするシステム・ユーザーの構成(64 ページ)• Unica Campaign で新規パーティションに対応するように Unica Deliver を使用可能にする(65 ページ)• Unica Deliver の受信者リスト・アップローダーの場所の指定(66 ページ)• Unica Deliver を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動(66 ページ)• Unica Deliver パーティションの構成および接続のテスト(67 ページ)

表 1. Unica Campaign および Unica Optimize アップグレード・ロードマップ

(続く)

トピック	情報
Unica Platform ユーティリティ (68 ページ)	このトピックには、以下の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーティリティ (70 ページ) • Unica Deliver レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) スクリプト (84 ページ) • MKService_rct スクリプト (85 ページ)
Unica Campaign および Unica Optimize のアンインストール (87 ページ)	このトピックには、キャンペーンのアンインストール方法に関する情報が示されます。

インストーラーの機能

キャンペーンをインストールする際には、Unica インストーラーを、キャンペーン インストーラーとともに使用します。

Unica スイート・インストーラーは、インストール・プロセスの間に、個々の製品インストーラーを始動します。

キャンペーンをインストールする際には、以下のガイドラインを使用してください。

- Unica インストーラーおよび キャンペーン インストーラーが、キャンペーンをインストールするサーバー上の同じディレクトリーに入っていることを確認してください。複数のバージョンの キャンペーン インストーラーが、Unica インストーラーと同じディレクトリーに存在する場合、Unica インストーラーを実行すると、インストール・ウィザードの「**HCL Unica 製品**」画面には、キャンペーンの最新のバージョンが表示されません。
- キャンペーン および Optimize のインストール直後にパッチのインストールを計画している場合、Unica および キャンペーン インストーラーと同じディレクトリーにパッチ・インストーラーが入っていることを確認してください。

Unica は、デフォルトで以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- /opt/HCL/Unica (UNIX™ の場合)
- C:\HCL\Unica (Windows™ の場合)

Unica 製品は、デフォルトで、*HCL_home* ディレクトリーのサブディレクトリーにインストールされます。例えば、Unica Platform は、*HCL_Unica_home/Platform* ディレクトリーにインストールされます。

キャンペーンは、デフォルトで *HCL_Unica_home/Campaign* ディレクトリーにインストールされます。

インストールのモード

Unica スイート・インストーラーは、GUI モード、X Window System モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Unica キャンペーンをインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

アップグレードの場合は、初期インストール時に実行するタスクと同じ多くのタスクをインストーラーを使用して実行します。

GUI X Window System モード


グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Unica キャンペーンをインストールするには、Windows™ の GUI モード、または UNIX™ の X Window System モードを使用します。

UNIX™ X Window System モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Unica キャンペーンをインストールするには、UNIX™ の X Window System モードを使用します。


コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Unica キャンペーンをインストールするには、コンソール・モードを使用します。

 **注:** コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Unica キャンペーンを複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力が必要としません。

 **注:** クラスター化された Web アプリケーションやクラスター化されたリスナー環境では、サイレント・モードはアップグレード・インストールでサポートされていません。

サンプル応答ファイル

Unica キャンペーンのサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 2. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	Unica スイート・インストーラーのサンプル応答ファイル。
installer_product_initials and product version number.properties	Unica キャンペーン インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_ucn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Unica Campaign インストーラーの応答ファイルです。 例えば、installer_umpr.n.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Unica Platform インストーラーの応答ファイルです。
installer_report_pack_initials, product_initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpcn.n.n.n.n.properties (n.n.n.n はバージョン番号) は、Unica Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

アップグレード・インストールが失敗した場合のレジストリー・ファイルの修正

インストール済み製品の基本バージョンをインストーラーが検出できなかったためにインストールが失敗した場合、ここに説明されている方法でレジストリー・ファイルを修正できます。

.com.zerog.registry.xml という名前の InstallAnywhere Global レジストリー・ファイルは、Unica 製品のインストール時に作成されます。このレジストリー・ファイルは、そのサーバー上にインストールされているすべての Unica 製品 (その各機能とコンポーネントを含む) をトラッキングします。

1. .com.zerog.registry.xml ファイルを見つけます。

製品をインストールするサーバーに応じて、.com.zerog.registry.xml ファイルは次のいずれかの場所にあります。

- Windows サーバーの場合、ファイルは Program Files/Zero G Registry フォルダーにあります。
Zero G Registry 非表示ディレクトリーです。非表示のファイルとフォルダーを表示する設定を有効にする必要があります。
- UNIX システムの場合、ファイルは以下のいずれかのディレクトリーにあります。
 - root ユーザー - /var/
 - root ユーザー以外 - \$HOME/

2. ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. ファイルを編集して、インストール済み製品のバージョンを参照するすべての項目を変更します。

例えば、次に示すのはファイル内の Unica Campaign バージョン 8.6.0.3 に対応する部分です。

```
<product name="Campaign" id="dd6f88e0-1ef1-11b2-accf-c518be47c366"
version=" 8.6.0.3 " copyright="2013" info_url="" support_url=""
```

```
location="<HCL_Unica_Home>\Campaign" last_modified="2013-07-25 15:34:01">
```

この例では、`version="8.6.0.3"` を参照するすべての項目を基本バージョン (このケースでは 8.6.0.0) に変更します。

第2章. Unica キャンペーン と Unica Optimize のアップグレードの計画

Unica キャンペーンの現行バージョンをアップグレードして、最新の機能を備えた状態に更新することができます。

前提条件

Unica 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

eMessage プロセス・ボックスでのフローチャート

eMessage プロセス・ボックスで使用中のフローチャートがある場合は、v12.1 にアップグレードする前に、このプロセス・ボックスをフローチャートから削除する必要があります。古い eMessage プロセス・ボックスを使用した Campaign フローチャートは、v12.1 では機能しません。

システム要件

サポートされるバージョンについて詳しくは、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」を参照してください。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる Unica 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

⚠ 重要: 最高のパフォーマンスを得るには、Optimize セッションを実行するために Campaign リスナーを専用のシステムにインストールし、そこに他の Unica 製品をインストールしないでください。Unica Optimize には大量の計算およびデータ処理リソースが必要です。Unica Optimize を専用環境で作動させると、パフォーマンス調整において最大の制御性と柔軟性を得られます。

JVM 要件

スイート内の Unica アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) に配置する必要があります。Unica 製品は Web アプリケーション・サーバーにより使用される JVM をカスタマイズします。

知識要件

Unica 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定


ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。

 **注:** 管理者は、テーブルとビューの両方に関する CREATE、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、および DROP 権限がなければなりません。


- Web アプリケーション・サーバーおよび Unica コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限。
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合) など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、および実行権限。

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX™ の場合、製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、rwxr-xr-x) が必要です。

UNIX™ の場合、以下の追加の権限が必要です。

- Campaign および Unica Platform をインストールするユーザー・アカウントは、Unica Campaign ユーザーと同じグループのメンバーでなければなりません。このユーザー・アカウントには、有効なホーム・ディレクトリーがなければならず、そのディレクトリーに対する書き込み権限も必要です。
- HCL Unica 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、rwxr-xr-x) が必要です。

 **注:** バージョン 12.0.0 以降の場合、Optimize セッションを実行するには、ユーザーがライセンスを申請する必要があります。詳しくは、HCL のサポート・チームまたは販売チームにお問い合わせください。

インストール前の考慮事項 Unica Campaign

Unica Campaign のインストールの場合、以下の点を考慮する必要があります。

JAVA_HOME 環境変数

Unica 製品をインストールするコンピューターに JAVA_HOME 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。サポートされるバージョンについて詳しくは、「Unica推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」を参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合、Unica インストーラーを実行する前に、その JAVA_HOME 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、JAVA_HOME 環境変数をクリアできます。

- Windows™: コマンド・ウィンドウで、set JAVA_HOME= (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。
- UNIX™: 端末で、export JAVA_HOME= (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。

端末で次のコマンドを実行して、JAVA_HOME 環境変数をクリアできます。


```
export JAVA_HOME= (空のままにする)
```


Unica インストーラーは、Unica インストール環境の最上位ディレクトリーに JRE をインストールします。個々の Unica アプリケーションのインストーラーは、JRE をインストールしません。その代わりに、Unica インストーラーによってインストールされた JRE の場所を指定します。すべてのインストールが完了した後に環境変数を再設定することができます。

サポートされる JRE について詳しくは、「Unica の推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

Unica Platform要件

Unica 製品をインストールまたはアップグレードする前に、Unica Platform をインストールまたはアップグレードする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Unica Platform を 1 回だけインストールまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Unica Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Unica Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティを設定する前に、Unica Platform が配置され実行している必要があります。


 **注:** UNIX にインストールする場合、Web アプリケーション・サーバーで、`Djava.awt.headless` プロパティを `true` に設定しなければならないことがあります。この設定は、Unica Optimize レポートを表示できない場合にのみ必要です。詳しくは、「Unica Campaign インストール・ガイド」を参照してください。Unica Optimize は Unica Campaign システム・テーブル・データ・ソースを使用するので、Unica Optimize 用に追加のデータ・ソースを準備する必要はありません。

 **注:** バージョン 12.0.0 以上の場合、データベース・タイプ Informix は機能しないため、選択しないでください。バージョン 12.1.0.3 以上では、ユーザーは OneDB データベースをシステム・テーブルおよびユーザー・テーブルとして使用できます。詳しくは、「Unica V12.1.0.3 インストール・ガイド (OneDB 用)」を参照してください。

IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 置換する PredictiveInsight

これまで PredictiveInsight を使用していた場合は、Unica Campaign では従来のモデル・プロセス・ボックスとスコア・プロセス・ボックスを使用できなくなります。

Unica Campaign バージョン 9.1.0 以降をインストールした後、従来のモデル・プロセス・ボックスとスコアのプロセス・ボックスが既存のフローチャートで構成解除されます。IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition を使用するか、SPSS モデル・プロセス・ボックスを使用して、予測モデルを手動で再作成する必要があります。

 **注:** 従来のモデル・プロセス・ボックスとスコアのプロセス・ボックスは非アクティブであり、実行できません。ただし、それを表示して、構成の詳細を確認することは可能です。

詳しくは、「Unica Campaign および IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 統合ガイド」を参照してください。

Unica Campaign のバックアップ

Unica Campaign をアップグレードする前に、Unica Campaign の現行インストール済み環境をバックアップする必要があります。Unica Campaign の現行インストール済み環境をバックアップすることで、アップグレード・プロセス中に何らかの問題が発生した場合に、Unica Campaign のインストール済み環境を既知の作業状態に確実にリストアすることができます。Campaign のインストール済み環境のバックアップは、インストーラーの実行時に手動または自動で行えます。

Unica Campaign の現行インストール済み環境を手動でバックアップするには、以下の手順に従います。

1. Unica Campaign インストール・ディレクトリーをバックアップします。Unica Deliver がインストールされている場合、Unica Deliver インストール・ディレクトリーをバックアップします。

Unica Campaign アップグレード・プロセスにより、Unica Campaign と Unica Deliver の実行に必要なすべてのファイルがインストールされます。Unica Deliver がインストールされている場合、Unica Campaign アップグレード・プロセスにより、Unica Campaign のアップグレード時に Unica Deliver のインストール済み環境がアップグレードされます。

2. Unica Campaign および Unica Deliver (Unica Deliver がインストールされている場合) の既存のインストール済み環境で使用されるシステム・テーブル・データベースをバックアップします。

データのバックアップを作成する手順については、ご使用のデータベースの資料を参照してください。

構成設定のエクスポート

Unica Campaign のアップグレード・バージョンで、Unica Campaign の現行インストール済み環境の構成設定を使用することができます。configTool ユーティリティーを使用して、アップグレードの前に Unica Campaign 構成パラメーターをエクスポートします。configTool ユーティリティーが作成する exported.xml ファイルの固有のファイル名と場所を指定し、アップグレード・プロセスの完了後にそのファイルを見つけられるように、メモに記録します。

アップグレード前チェック・ユーティリティー

Unica Campaign をアップグレードする前に、**preUpgradeTool** ユーティリティーを使用して、ファイル・システムやデータベースに問題や不整合がないか確認します。このユーティリティーの実行はオプションですが、推奨されています。

preUpgradeTool は、**acUpgradeTool** と同じ場所にインストールされています。Windows の場合、ユーティリティーは preUpgradeTool.bat という名前です。それ以外のオペレーティング・システムの場合、ユーティリティーは preUpgradeTool.sh という名前です。

このユーティリティーでは、次のチェックを行います。

- ファイルの存在のチェック: Unica Campaign ホーム・ディレクトリーのロケーションを検証します。このディレクトリーはファイル・システムに存在し、ユーティリティーからアクセス可能である必要があります。このチェックでは、データベースのアップグレード・スクリプトや構成ファイルなどの、アップグレー

ドに必要なすべてのファイルがこのディレクトリーにあるかどうかを検証します。いずれかのファイルがアクセスできない場合、このチェックは失敗となります。

- 構成のチェック: 構成のアップグレードに必要な、campaign_configuration.xml へのアクセス可能性を検証します。このタスクは、campaign_configuration.xml が有効な xml ファイルであるかどうかを確認します。ファイルが壊れている場合、タスクは失敗となります。
- 構成のアクセス可能性チェックを実行します。Unica Platform 構成がアクセス可能であるかどうかを検証します。
- データベースのアップグレードのチェック: ユーザーが指定したデータベースの詳細が有効であるかどうか検証します。ユーザーの資格情報を使用してユーティリティーがデータベースにアクセスし、データベースに Unica Campaign システム・テーブルが含まれているかどうか検証します。このチェックでは、ユーザーがデータベースでの作成、削除、変更の権限を持っているかどうかを検証します。
- Unica Campaign およびセッション ses ファイルのチェック: 各キャンペーン、セッション、およびフローチャートには、それらに関連付けられたタイプ ses のファイルが含まれています。.ses ファイルは、キャンペーン、セッション、またはフローチャートに関連付けられたシステム・データを格納します。ファイルが欠落していると、関連するオブジェクトは使用できません。

前提条件

preUpgradeTool を実行する前に、Unica Campaign インストール環境の tools/upgrade/11.1+To12.1/setenv ファイルに環境の詳細を入力します。ファイル拡張子は、.bat (Microsoft Windows) または or.sh (その他のオペレーティング・システム) です。その後で **preUpgradeTool** ユーティリティーを実行できます。

Web アプリケーション環境をクラスター化してある場合は、Unica Platform の Affinium|Campaign|campaignClustering 構成で定義されている campaignSharedHome のパスを setenv ファイルの CLUSTERED_SHARED_PATH 変数で設定してください。

Windows の場合:

```
set CLUSTERED_SHARED_PATH=
```

Linux の場合:

```
CLUSTERED_SHARED_PATH=
export CLUSTERED_SHARED_PATH
```

プロセスの概要

アップグレード前チェック・ユーティリティーに関する注意点を以下にまとめます。


1. ユーティリティーは対話式に、アップグレードに必要な情報 (CAMPAIGN_HOME のロケーションやデータベースの詳細) を要求します。
2. すべての詳細が収集された後に、検証が行われます。
3. 各検証ステップの状況が表示されます。すべての結果はログにも記録されます。
4. すべてのチェックに合格したら、成功のメッセージと、アップグレードを続行するオプションが表示されます。
5. ユーザーが指定するすべてのデータは、アップグレード・スクリプトに自動的に渡されます。

次に行うこと

アップグレード前チェック・ユーティリティーが完了したら、アップグレードを開始するかどうかを選択できます。「はい」を選択すると、acUpgradeTool が呼び出され、アップグレードが開始されます。

例:

```
2017-08-07 14:51:29,314 INFO common.Prompter [480] - Pre upgrade finished successfully.  
Do you want to continue for Updrade tool?
```


 **注:** 「はい」を選択する場合に、別途 acUpgradeTool を再実行する必要はありません。

アップグレード・ログ

acUpgradeTool は、処理に関する詳細、警告、およびエラーをログ・ファイルに書き込みます。アップグレード・ツールを実行する前に setenv スクリプト・ファイルを編集することにより、ログ・ファイルの場所と冗長レベルを調整できます。setenv ファイルはアップグレード・ツールと同じフォルダーに保管されています。

ac_upgrade.log は、デフォルトのログ・ファイルです。ac_upgrade.log ログ・ファイルは、Unica Campaign インストール・ディレクトリーの logs フォルダーに保管されています。

アップグレード・ログで警告およびエラーを確認し、エラーを修正してから、アップグレードを完了してください。

 **注:** 同じ場所には、CHRH.log ファイルも生成されます。CHRH.log ファイルは、サイズが 0 KB なので、無視して構いません。

全 Unica 製品に関するアップグレード前提条件

キャンペーンをアップグレードする際には、確実にシームレスにアップグレードを遂行するため、事前にすべての権限、オペレーティング・システム、および知識に関する要件を適切に満たしておく必要があります。

以前のインストールで生成された応答ファイルの削除

8.6.0 より前のバージョンからアップグレードしている場合、前の Unica キャンペーン インストールによって生成された応答ファイルを削除する必要があります。古い応答ファイルには、8.6.0 以降のインストーラーとの互換性はありません。

古い応答ファイルを削除しないと、インストーラーを実行するときにインストーラー・フィールドに正しくないデータが事前に入力されていたり、一部のファイルがインストーラーによってインストールされなかったり、構成ステップがスキップされたりする可能性があります。

応答ファイルの名前は installer.properties です。

各製品の応答ファイルの名前は installer_*productversion*.properties です。

インストーラーは、インストール時にユーザーが指定したディレクトリー内に応答ファイルを作成します。デフォルトの場所は、ユーザーのホーム・ディレクトリーです。

以下のユーザー・アカウント要件: UNIX™

UNIX™ では、製品をインストールしたユーザー・アカウントでアップグレードを実行する必要があります。そうしないと、インストーラーは前のインストールの検出に失敗します。


32 ビットから 64 ビットへのバージョンアップ

Unica キャンペーンの 32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンに移行している場合は、必ず以下のタスクを実行してください。

- 製品データ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーが 64 ビットであることを確認する
- すべての関連ライブラリー・パス (例えば、開始スクリプトまたは環境スクリプト) が、データベース・ドライバーの 64 ビット・バージョンを正しく参照していることを確認する。


以下のメモリーからの未使用ファイルのアンロード: AIX®

AIX® でのインストールの場合、インストーラーをアップグレード・モードで実行する前に、AIX® インストールに付属の slibclean コマンドを実行して、未使用のライブラリーをメモリーからアンロードします。

 **注:** slibclean コマンドは root ユーザーとして実行する必要があります。

カスタム・ファイルのバックアップ

Unica 12.1 へのアップグレードを開始する前に、<UNICA_HOME>/jre/ の場所に存在しているすべてのカスタム・ファイルをバックアップしてください。<UNICA_HOME>/jre/ の場所に存在するカスタム・ファイルをバックアップしない場合、Unica 12.1 のアップグレードによって既存の jre フォルダが削除され、Oracle JRE ファイルを含む新しい jre フォルダがインストールされるため、ファイルが失われます。

 **注:** オペレーティング・システムが IBM AIX の場合、Unica 12.1 は IBM JRE をインストールします。

以下の自動コミット要件: Oracle または DB2®

Unica Platform システム・テーブルが Oracle または DB2® にある場合、環境がオープンされる度に自動コミット・モードを有効にする必要があります。

Oracle または DB2® の資料の説明を参照してください。

ユーザー定義のグループ名および役割名の変更

Unica Campaign をアップグレードするには、その前に、Unica Platform をアップグレードする必要があります。Unica Platform アップグレード時の問題を回避するため、ユーザーが作成するグループおよび役割の名前は、Unica Platform によって定義されるグループや役割の名前と異ならなければなりません。

これらの名前が同じである場合は、ユーザーが作成したグループや役割の名前を、アップグレード前に変更する必要があります。例えば、Admin という名前のグループまたは役割を作成した場合、Admin は Unica Campaign で使用されている名前であるため、作成した名前を変更する必要があります。

Unica Campaign アップグレード・ワークシート

acUpgradeTool を実行する前に、Unica Campaign および Optimize のインストール済み環境に関する情報を収集する必要があります。

Unica Campaign および Optimize のインストール済み環境に関する以下の情報を収集します。

- Unica Campaign インストール・ディレクトリーの絶対パス (setenv ファイル内の CAMPAIGN_HOME)
- 複数のパーティションをアップグレードする場合は、アップグレードするパーティションの名前
- ターゲット Campaign システムの接続情報 (URL およびポート)
- 接続タイプ (JDBC) および JAR ファイルの場所
- Java™ クラス名 (JDBC ドライバー向け)
- JDBC URL
- JDBC ドライバーに必要な追加プロパティ (ある場合)
- ターゲット・システム・テーブル・データベースのユーザー名とパスワード
- ターゲット・システム・テーブルのカタログ (またはデータベース)
- ターゲット・システム・テーブルのスキーマ
- アップグレード前の Unica Campaign のバージョン
- Unica Campaign 構成ファイル (campaign_configuration.xml) の絶対パスまたは相対パス。このファイルは、Unica Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

第3章. Unica Campaign および Unica Optimize のアップグレード

Unica Campaign および Unica Optimize は、バージョン 11.1.0 からのみバージョン 12.0 にアップグレードできます。

表 3.


アップグレード前のバージョン	詳細
8.6.x より前	<p>8.6.x より前のバージョンからアップグレードするには、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「Unica Campaign 8.6 インストール・ガイド」のアップグレードに関する章の説明に従って、バージョン 8.6 にアップグレードします。2. 「Unica Campaign 10.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 10.0 にアップグレードします。3. 「Unica Campaign 10.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 10.1 にアップグレードします。4. 「Unica Campaign 11.0.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.0.1 にアップグレードします。5. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。6. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。7. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
8.6.x 以上	<p>バージョン 8.6.x 以上からアップグレードするには、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「Unica Campaign 10.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 10.0 にアップグレードします。2. 「Unica Campaign 10.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 10.1 にアップグレードします。3. 「Unica Campaign 11.0.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.0.1 にアップグレードします。4. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。

表 3. (続く)


アップグレード前のバージョン	詳細
	5. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。 6. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
10.0 以上	バージョン 10.0.x 以上からアップグレードするには、以下の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Unica Campaign 10.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 10.1 にアップグレードします。 2. 「Unica Campaign 11.0.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.0.1 にアップグレードします。 3. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。 4. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。 5. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
10.1.x.x 以上	バージョン 10.1.x.x からアップグレードするには、以下の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Unica Campaign 11.0.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.0.1 にアップグレードします。 2. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。 3. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。 4. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
11.0	バージョン 11.0 からアップグレードするには、以下の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Unica 11.0.1 高速アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.0.1 に高速アップグレードします。 2. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。

表 3. (続く)

アップグレード前のバージョン	詳細
	3. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。 4. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
11.0.1.x バージョン	バージョン 11.0.1.x からアップグレードするには、以下の手順を実行します。 1. 「Unica Campaign 11.1 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 11.1 にアップグレードします。 2. 「Unica Campaign 12.0 アップグレード・ガイド」の説明に従って、バージョン 12.0 にアップグレードします。 3. 本書の説明に従って、バージョン 12.1 にアップグレードします。
11.1.x バージョン	Unica Campaign 11.1.x からのアップグレードは、インプレース・アップグレードであると見なされます。Unica Campaign のインストール先と同じディレクトリーに新しいバージョンをインストールする必要があります。それにより Unica Campaign はアップグレードを検出することができます。
12.0.x バージョン	Unica Campaign 12.0.x からのアップグレードは、インプレース・アップグレードであると見なされます。Unica Campaign のインストール先と同じディレクトリーに新しいバージョンをインストールする必要があります。それにより Unica Campaign はアップグレードを検出することができます。 MariaDB システム・テーブルのアップグレードは v12.0 からサポートされています

 **注:** クラスター化された Unica Campaign リスナー構成にアップグレードする場合は、「[クラスター化リスナー環境へのアップグレード\(95 ページ\)](#)」を参照してください。

Tomcat および JBoss アプリケーション・サーバーは 11.1 バージョンからサポートされます。そのため、これらのアプリケーション・サーバーを使用する場合は、データ・ソースの作成については「Unica Campaign インストール・ガイド」の『[第 3 章 Campaign のデータ・ソースの準備](#)』を、JBoss および Tomcat アプリケーション・サーバーへの Unica Campaign の配置については『[第 7 章 Campaign Web アプリケーションの配置](#)』を参照してください。

 **注:** Campaign アプリケーションに SSL を実装することを計画している場合は、「Platform 管理者ガイド」の『[片方向 SSL の実装](#)』セクションを参照してください。


GSKIT を使用して Campaign アプリケーションを構成した場合は、Open SSL を使用して新しい証明書を生成し、「Platform 管理者ガイド」の『片方向 SSL の実装』セクションで言及されている手順で SSL を構成する必要があります。

以下の手順は、Unica Campaign および Optimize のアップグレードに必要な作業に関する概要を示します。

1. AIX® にインストールする場合は、インストーラーをアップグレード・モードで実行する前に、使用していないライブラリーをメモリーからアンロードしてください。
2. Unica Campaign をアンデプロイします。
3. Unica Campaign インストール・ディレクトリーの Unica インストーラーおよび Unica Campaign インストーラーを実行します。インストーラーは自動的にアップグレード・モードで実行されます。以下の表の指示に従います。

表 4. Unica Campaign インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これはキャンペーンのインストーラーの最初のウィンドウです。このウィンドウから、キャンペーンのインストール・ガイドとアップグレード・ガイドを開くことができます。 「次へ」をクリックします。
ソフトウェアのご使用条件	使用条件を注意深くお読みください。「印刷」を使用すると、この使用条件を印刷できます。使用条件を受け入れてから、「進む」をクリックします。
インストール・ディレクトリー	「選択」をクリックして、キャンペーンおよび Optimize のインストール先のディレクトリーを参照します。 「次へ」をクリックします。
コンポーネント	インストールするコンポーネントを選択します。コンポーネントを選択すると、そのコンポーネントに関する情報がインストーラーに表示されます。 「次へ」をクリックします。
単一リスナーまたは複数リスナー	非クラスター化リスナー構成 (単一ノード) を選択します。

ウィンドウ	説明
リスナー・ノード・プロパティ	<p> 注: クラスター化リスナーのインストールを行う場合、インストールの指示については、インストール・ガイドの付録 B を参照してください。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p> <p>Campaign のみ、Optimize のみ、またはその両方で、Campaign 分析サーバーをサーバーにインストールすることを選択できます。以下のいずれかのオプションまたは両方を選択できます。「次へ」をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Campaign フローチャートのみを実行 • Optimize セッションのみを実行 • Campaign フローチャートと Optimize セッションを実行
上書きの確認	<p>Optimize の既存のバージョンがシステムにインストールされている場合は「はい」を選択し、「Optimize ホーム」ボックスで既存の Optimize のインストール場所を指定します。「次へ」をクリックします。</p> <p>既存のインストールを上書きするには「次へ」をクリックします。前のステップに戻るには「戻る」をクリックします。</p>
デフォルト・ロケール	<p>インストール環境のためのデフォルト・ロケールを選択します。デフォルトで英語が選択されます。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p>
Campaign データベース・セットアップ	<p>Campaign データベースをセットアップするための、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動データベース・セットアップ • 手動データベース・セットアップ <p>「自動データベース・セットアップ」を選択した場合、システム・テーブルが Unicode 用に構成されるときは、「Unicode SQL スクリプトの実行」を選択します。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p>
Campaign データベース・タイプ	<p>適切なデータベース・タイプを選択します。</p>

ウィンドウ	説明
Campaign データベース接続	<p>「次へ」をクリックします。</p> <p>Campaign データベースの以下の詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベースのホスト名 • データベース・ポート • データベース・システム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • パスワード <p>! 重要: Unica 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。また、クラスター環境において、配置にデフォルトのポート 80 または 443 とは異なるポートを使用する場合は、このプロパティの値にポート番号を使用しないでください。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p>
JDBC 接続	<p>JDBC 接続を検討して確認します。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p>
Campaign 接続の設定	<p>以下の接続設定を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク・ドメイン・ネーム <p>注: ネットワークのドメイン・ネームを追加する時に、次のようなメッセージが表示されることがあります。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p>警告サーバー名には、ドメイン名が含まれ、最終 URL にはドメイン名のいくつかのオカレンスが含まれます</p> </div> <p>「変更」を選択してドメイン・ネームを変更するか、「キャンセル」をクリックしてメッセージを取り消してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名

ウィンドウ	説明
Platform ユーティリティ設定	<ul style="list-style-type: none"> • ポート番号 - ロード・ balancer または HTTP サーバーがある場合は、インストール時にそのホスト名を指定します。ポートを空のままにはしないでください。 <p>必要であれば、「セキュア接続の使用」チェック・ボックスを選択します。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p> <p>Unica Platform データベースに接続するための以下の情報を確認し、確定するか変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JDBC ドライバー・クラス • JDBC 接続 URL • JDBC ドライバー・クラスパス <p>「次へ」をクリックして、入力した内容を検証し、次のウィンドウに進みます。</p>
データ・ソースの作成	<p>インストーラーは、1つのパーティション用の JDBC データ・ソースを、Web アプリケーション・サーバー (WebSphere® または WebLogic) に作成することができます。このデータ・ソースは、キャンペーン Web アプリケーションがキャンペーンシステム・テーブルに接続するために必要です。インストーラーでこのステップを省略し、インストールの完了後に Web アプリケーション・サーバーの管理コンソールでデータ・ソースを作成することもできます。</p> <p>「キャンペーンデータ・ソースの作成」チェック・ボックスにチェック・マークを付けた場合、インストーラーは、指定された情報を使用してデータ・ソースを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・サーバーが稼働している必要があります。 • データ・ソースの名前を入力します。 <p>インストーラーは JNDI 名 (campaignPartition1DS) を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・サーバーがインストールされているディレクトリーを入力します。


ウィンドウ	説明
アプリケーション・サーバーの情報 (WebSphere®)	<p>WebSphere® の場合、これは profiles ディレクトリーを含むディレクトリーです。このデータ・ソースを使用するには、インストーラーが終了した後に WebSphere® を再始動する必要があります。</p> <p>WebLogic の場合、これは common ディレクトリーを含むディレクトリーです。</p> <p>「進む」をクリックして、次のウィンドウに移動します。</p>
アプリケーション・サーバーの情報 (WebLogic)	<p>アプリケーション・サーバーが WebSphere® の場合のみ使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キャンペーンを配置するアプリケーション・サーバー・プロファイルを入力します。 • プロファイルのサーバー名を入力します。 • WebSphere のセキュリティが有効な場合は、管理者のユーザー ID とパスワードを入力します。 <p>「進む」をクリックして、次のウィンドウに移動します。</p> <p>アプリケーション・サーバーが WebLogic の場合のみ使用します。</p> <p>ドメイン・サーバー名および管理者のユーザー ID とパスワードを入力します。SSL が有効な場合は、ドメインの HTTP ポートを入力します。</p> <p>WebLogic 管理コンソールで、WebLogic にデータベース・ドライバー・クラスパスを追加する必要があります。ご注意ください。</p>
プリインストールのサマリー	<p>「進む」をクリックして、次のウィンドウに移動します。</p> <p>インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。</p> <p>「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。</p> <p>キャンペーンインストーラーが開きます。</p>

ウィンドウ	説明
インストール完了	「終了」をクリックして Unica Platform インストーラーを終了し、Unica インストーラーに戻ります。

- アップグレード前モードでアップグレード前ユーティリティを実行します (preUpgradeTool.bat または preUpgradeTool.sh)。
- アップグレード・ツール (acUpgradeTool) を実行します。
- アップグレードを完了したら、ブラウザー・キャッシュをクリアする必要があります。また、Unica Campaign アプリケーションを更新する Unica Campaign フィックス・パックや Unica Campaign 暫定修正のインストール後にも、ブラウザー・キャッシュをクリアする必要があります。
- 「Unica Reports インストールおよび構成ガイド」の説明に従って、レポートをアップグレードします。

Unica Deliver ユーザーのための重要な注記

Unica Deliver は Unica Campaign の一部としてインストールまたはアップグレードされます。Unica Deliver を現在使用している場合、または使用することを計画している場合は、[Deliver へのアップグレードに関する考慮事項\(30 ページ\)](#) を参照してください。

 **注:** Unica Deliver をアップグレードするときに、「自動 DB セットアップ」を選択する必要はありません。このオプションは、Unica Deliver システムがまだ存在しない場合の新規インストールのためのものです。

メモリーからの未使用ファイルのアンロード (AIX® のみ)

AIX® でのインストールの場合、インストーラーをアップグレード・モードで実行する前に、AIX® インストールに付属の slibclean コマンドを実行して、未使用のライブラリーをメモリーからアンロードします。これには、root として slibclean コマンドを実行する必要があることに注意してください。

Unica Campaign のアンデプロイとアップグレード

Unica Campaign をアップグレードする前に、Unica Campaign の現行インストール済み環境をアンデプロイする必要があります。

Unica Campaign の現行インストール済み環境をアンデプロイするには、以下の手順に従います。

- 実行されている可能性のある Unica Campaign ユーティリティ (unica_*) をすべて停止します。詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

このステップをスキップした場合、インストーラーは実行中のプロセスがあるかどうかを検出して、それらを停止することを要求します。

- 次のいずれかの方式を使用して、Unica Campaign リスナーを停止します。
 - UNIX™ の場合は、次のコマンドを root として実行します。./rc.unica_ac stop
 - Windows™ の場合は、Unica Campaign bin ディレクトリーに移動して、次のコマンドを入力します。svrstop -p <port>、<port> はリスナーが実行されているポート。デフォルトでは、<port> は 4664 です。

CAMPAIGN_HOME 環境変数の指定が求められたら、次のコマンドを使用して CAMPAIGN_HOME 環境変数を設定します。set CAMPAIGN_HOME=C:\installation_path\Campaign。

CAMPAIGN_HOME 環境変数を設定した後、ここで示すとおりを設定を実行した後、svrstop コマンドを再度実行します。

3. Web アプリケーション・サーバーの指示に従って、Campaign.war ファイルを配置解除し、すべての変更を保存するかアクティブにします。
4. Web アプリケーション・サーバーをシャットダウンしてから再始動することで、Campaign.war ファイルのロックを解除します。

Unica Campaign の現行インストール済み環境をアンデプロイした後、アップグレード・モードで Unica インストーラーを実行することができます。インストーラーをアップグレード・モードで実行する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- Unica インストーラーがアップグレード・モードで実行されるようにするには、インストーラーを実行するときに現行インストール済み環境と同じディレクトリーを選択します。インストーラーは、Unica Campaign の既存のバージョンを検出し、アップグレードを確認するよう求めるプロンプトを出します。
- アップグレードする場合は、インストーラー・オプションの「**自動 DB セットアップ**」を選択しないでください。このオプションは新規インストールのためのものであり、アップグレードは対象としていません。
- 他の HCL 製品がインストールされているシステムでインストーラーを再実行する場合、アップグレード・プロセス中にインストーラーで Unica Campaign だけを選択します。
- 応答ファイルが既に作成済みで不在モードで実行する場合、インストーラーは以前に設定されたインストール・ディレクトリーを使用します。応答ファイルがないときに不在モードを使用してアップグレードする場合は、初回のインストール時にインストーラーを手動で実行して応答ファイルを作成し、インストール・ウィザードで現行のインストール・ディレクトリーを必ず選択してください。
- Campaign リスナーがサーバーにインストールされており、J2EE が別のサーバーにインストールされている分散システムがある場合、以下のタスクを実行して Unica Campaign をアップグレードします。
 1. Unica Campaign リスナーがインストールされているサーバーで Unica Campaign インストーラーを実行します。インストーラーの「**Campaign コンポーネント**」ウィンドウで「**Campaign サーバー**」オプションが選択されていることを確認します。
 2. J2EE がインストールされているサーバーで Unica Campaign インストーラーを実行します。インストーラーの「**Campaign コンポーネント**」ウィンドウで「**Campaign サーバー**」オプションがクリアされていることを確認します。

アップグレード・プロセスの後、EAR ファイルを作成できます。EAR ファイルの作成について詳しくは、「Unica Campaign インストール・ガイド」を参照してください。

アップグレード・モードで Unica インストーラーを実行した後、acUpgradeTool を実行してアップグレード・プロセスを続行します。

注: Campaign 11.1.X 以前から Campaign 12.1 にアップグレードした場合、スケジュール済みフローチャートはアップグレード後に実行されません。quartzjobtool を使用して、スケジューラー・ジョブを更新します。platform_home/tools/bin/quartzjobtool.sh (Unix) または quartzjobtool.bat (Windows) を実行します。

SQL アップグレード・スクリプト

データベース・タイプに応じて SQL アップグレード・スクリプトを使用して Unica Campaign のインストール済み環境をアップグレードします。

SQL アップグレード・スクリプトは Campaign_Home/tools/upgrade/11.1+To12.0 フォルダにあります。データベース・タイプに応じて、以下の表のスクリプトのいずれかを使用します。

表 5. データベース・タイプ別の SQL アップグレード・スクリプト

SQL アップグレード・スクリプト	データベース・タイプ
ac_upgrade_db2.sql	DB2® アップグレード・スクリプト (非 Unicode)
ac_upgrade_db2_unicode.sql	DB2® アップグレード・スクリプト (Unicode)
ac_upgrade_oracle.sql	Oracle アップグレード・スクリプト (非 Unicode)
ac_upgrade_oracle_unicode.sql	Oracle アップグレード・スクリプト (Unicode)
ac_upgrade_sqlsvr.sql	MS SQL Server アップグレード・スクリプト (非 Unicode)
ac_upgrade_sqlsvr_unicode.sql	MS SQL Server アップグレード・スクリプト (Unicode)

Optimize を使用していて、v12.0 より前のバージョンをアップグレードする場合は、以下の SQL コマンドを使用してインデックスを追加します。

aco_extra_indexes_db2.sql

aco_extra_indexes_mariadb.sql

aco_extra_indexes_ora.sql

aco_extra_indexes_sqlsvr.sql

Optimize をクリーン・インストールとしてインストールする場合は、このスクリプトを実行する必要はありません。

acUpgradeTool

acUpgradeTool は、Unica Campaign システム・テーブルを更新するとともにユーザー・データを変更して、新しいバージョンの Unica Campaign と連動するようにします。Unica インストーラーをアップグレード・モードで実行した後、acUpgradeTool を実行できます。

アップグレード・ツールの環境変数の設定

acUpgradeTool を実行する前に、setenv ファイルを編集して、acUpgradeTool ツールが必要とする環境変数を設定します。

1. setenv.bat (Windows) または setenv.sh (UNIX) をテキスト・エディターで開きます。
setenv ファイルは、アップグレード・ツールをインストールしたディレクトリー (Campaign_Home/tools/upgrade/11.1+To12.1 など) に保管されています。
2. setenv ファイル内の説明に従って、インストールに関連する値を入力します。
以下の表には、変数のリストが含まれています。

表 6. setenv ファイルの変数:

変数	説明
JAVA_HOME	必須。 Unica Campaign インストールによって使用される JDK のルート・ディレクトリー。
JDBCDRIVER_CLASSPATH	必須。 .jar ファイルを含む JDBC ドライバーの絶対パス。
その他の変数	設定可能なオプション変数が多数あります。例: <ul style="list-style-type: none"> • Unicode スクリプトを実行するには、次を設定します IS_UNICODE_SCRIPT=YES • アップグレード・ツール実行中のメモリー・エラーを回避するには、より大きい Java™ ヒープ・メモリー・サイズを JAVA_OPTIONS 環境変数で指定します。 手順については、setenv ファイルを参照してください。

acUpgradeTool の実行


Unica Campaign をアップグレードするには、アップグレード・モードでインストーラーを実行した後、acUpgradeTool を実行します。

acUpgradeTool を正常に実行するには、以下の情報を確認してください。

- アップグレード・ツールが必要とする情報を使用して setenv ファイルがカスタマイズされている。
- アップグレード・ツールを実行するコンピューターにそのアップグレード・ツールがインストールされている。セットアップが分散されている場合、これらのツールを、Unica Campaign Web アプリケーションがインストールされているコンピューターにインストールする必要があります。Unica Campaign のインストール時にアップグレード・ツールをインストールしなかった場合は、インストーラーを再度実行して、「**アップグレード・ツール**」オプションのみ選択してください。
- Unica Campaign システム・テーブルのデータ・ソース用の該当するデータベース・クライアント実行可能ファイル (db2、osql、または sqlplus) が、アップグレード・ツールを実行するユーザーの PATH でアクセス可能である。

ツールをアップグレードする前に、以下の手順を実行しておきます。

1. アップグレード・モードでの Unica Campaign インストーラーの実行。
2. Unica Campaign の再配置。
3. RCT の再始動 (Unica Deliver を使用している場合)。
4. SQL スクリプトの変更 (必要な場合) およびツールの実行時に入力する情報の収集。

 **注:** 複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに合わせてアップグレード・ツールを構成し、各パーティションに対して 1 回実行する必要があります。

以下のアクションを実行して acUpgradeTool を実行し、アップグレード・プロセスを完了します。

1. ターゲット・システムの Web アプリケーション・サーバーおよび Campaign Web アプリケーションを始動します。
2. Unica Campaign リスナーが停止されていることを確認します。

実行されている可能性のある Unica Campaign ユーティリティー (unica_*) をすべて停止します。詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

3. Unica Campaign インストール済み環境のパスでアップグレード・ツール `Campaign_Home/tools/upgrade/11.1 To 12.1/acUpgradeTool` を実行します
4. 要求される情報をプロンプトで入力し、新規バージョンの Unica Campaign 用にシステム・テーブルをアップグレードします。
5. 以下のいずれかの手順を実行して、Unica Campaign リスナーを再始動します。
 - Windows™ の場合は、Unica Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーにある `cmpServer.bat` ファイルを実行します。
 - UNIX™ の場合は、次のコマンドを root として実行します。



```
./rc.unica_ac start
```

acUpgradeTool を実行した後、以下の手順に従います。

1. Unica Campaign リスナー (サーバーとも呼ばれる) を再始動します。
2. Deliver を使用している場合、RCT を再始動します。

RCT を手動で再始動するには、`rct start` コマンドを使用します。Unica Deliver インストール済み環境の bin ディレクトリーにある RCT スクリプトを実行します。

RCT がインストールされているマシンのオペレーティング・システムを再始動するたびに RCT を再始動するには、RCT をサービスとして追加します。手順については、[MKService_rct スクリプト\(85 ページ\)](#) を参照してください。

 **注:** RCT をサービスとして再始動する場合、1 回目は手動で RCT を再始動する必要があります。

第4章. Deliver へのアップグレードに関する考慮事項

Unica Deliver は、Unica Campaign バージョン 12.1 と一緒に動作します。

Unica Deliver の構成

最新バージョンの Unica Deliver に構成するには、Unica Campaign を同じバージョンにアップグレードする必要があります。

- アップグレードの一部として Unica Deliver システム・テーブルの変更がある場合は、必要なスキーマ・アップグレード・スクリプトおよびプロシージャラーが HCL から提供されます。アップグレードを開始する前に、切り捨てスクリプトを実行してください。ユーザーは、必要に応じてテーブルのバックアップを取る必要があります。削除スクリプトは、<Campaign_Home>/Deliver/ddl/upgrade にある `ace_op_delete_systab_<db_type>.sql` という名前のファイルで配置されます。
- Deliver の `deliverPluginJarFile` を設定する必要があります。以下の手順を実行します。
 1. Platform にログインし、「設定」>「構成」に移動します。
 2. Affinium|Campaign|partitions|partition1|Deliver に移動して、`deliverPluginJarFile` の値を以下のように指定します。トークン `<Campaign_home>` は、`Campaign_Home` の実際の値に置き換える必要があります。

```
deliverPluginJarFile <CAMPAIGN_HOME>/Deliver/plugin/deliverplugin.jar
```
 3. Campaign アプリケーション・サーバーを再始動します。

Unica Deliver を使用して E メールを送信するには、HCL に連絡してホストされた E メール・サブスクリプションを購入する必要があります。E メール・サブスクリプションを購入した後の Unica Deliver の構成方法については、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。


アップグレードの後、以下のいずれかの方法でレスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を始動します。

手動による RCT の始動

RCT を手動で始動するには、`rct start` コマンドを使用します。RCT スクリプトは、Unica Deliver インストール済み環境の `bin` ディレクトリーに保管されています。詳しくは、[Unica Deliver レスポンスおよびコンタクトのトラッカー \(RCT\) スクリプト\(84 ページ\)](#) を参照してください。

サービスとしての RCT の始動

RCT がインストールされているコンピューターを再始動するたびに RCT を始動するには、RCT をサービスとして追加します。

 **注:** RCT をサービスとして始動する場合、1 回目は手動で RCT を始動する必要があります。


第5章. Unica Campaign Web アプリケーションの配置

Unica Campaign Web アプリケーションを配置するには、EAR ファイルを使用するか、個々の WAR ファイルを配置します。

Unica Campaign を配置するには、このセクションのガイドラインに従ってから、Unica Campaign サーバーを始動してください。

Unica Campaign インストーラーを実行したときに、Unica Campaign を EAR ファイルに含めたか、または Campaign WAR ファイルを配置するように選択した可能性があります。Unica Platform または他の製品を EAR ファイルに含めた場合、EAR ファイルに含めた製品の個々のインストール・ガイドに詳しく示されている、配置ガイドラインのすべてに従う必要があります。

Web アプリケーション・サーバーを使用した作業方法について把握する必要があります。管理コンソールでのナビゲーションなどの詳細については、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

 **注:** Unica Campaign で Web アプリケーションのクラスター化を使用することに関する情報は、[Unica Campaign Web アプリケーション・クラスタリング\(89 ページ\)](#)に記載されています。

Web アプリケーションのセッション・タイムアウトの設定

非アクティブの HTTP セッションがオープン状態を維持できる時間の長さは、セッション・タイムアウトによって決まり、その後、セッションは期限切れになります。必要であれば、WebSphere® コンソールまたは WebLogic コンソールを使用してセッション・タイムアウトの値 (秒または分) を調整することにより、Unica Campaign に対する Web アプリケーションのセッション・タイムアウトを設定できます。

Web アプリケーション・サーバーにセッション・タイムアウトを設定するには、次のようにします。

- WebSphere®: WebSphere® Application Server 管理コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを分単位で設定します。この設定は、サーバーおよびエンタープライズ・アプリケーション・レベルで調整できます。詳細については、WebSphere® のドキュメントを参照してください。
- WebLogic: WebLogic コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを秒単位で設定するか、weblogic.xml ファイル内で **session-descriptor** 要素の **TimeoutSecs** パラメーター値を調整します。

WebSphere Application Server への Unica Campaign の配置

製品のランタイム環境を、WAR ファイルまたは EAR ファイルに基づいてサポート対象バージョンの WebSphere® Application Server (WAS) 上に配置できます。設計時環境は、製品の EAR ファイルまたは WAR ファイルによって自動的に配置されます。

- WAS で複数の言語エンコードが使用可能であることを確認してください。
- 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードを実行する場合は、JDK ソース・レベルが 18 に設定されていることを確認してください。

- WAS サーバーの lib ディレクトリーに `javax.el-3.0.1-b11.jar` を追加していることを確認してください。`javax.el-3.0.1-b11.jar` は <https://mvnrepository.com/artifact/org.glassfish/javax.el/3.0.1-b11> からダウンロードできます
- Unica Deliver を機能させるために、WebSphere に JVM 引数 `-Dhttps.protocols=TLSv1.2` を追加します。

WAR ファイルから WAS への Campaign の配置

WAR ファイルから WAS に製品アプリケーションを配置することができます。

製品を配置する前に、以下のタスクを実行してください。

- ご使用の WebSphere のバージョンが、必要なフィックス・パックまたはアップグレードも含めて、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていることを確認します。
- WebSphere でデータ・ソースとデータベース・プロバイダーを作成したことを確認します。

1. WebSphere® Integrated Solutions Console に移動します。
2. 「アプリケーション」 > 「アプリケーション・タイプ」 > 「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」に移動し、「インストール」をクリックします。
3. 「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、「詳細 - すべてのオプションとパラメーターを表示」チェック・ボックスを選択して、「次へ」をクリックします。
4. 「続行」をクリックして、「新規アプリケーションのインストール」ウィザードを表示します。
5. 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのウィンドウでは、以下に挙げるウィンドウを除いて、デフォルト設定を受け入れます。
 - 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのステップ 1 では、「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」チェック・ボックスを選択します。
 - インストール・ウィザードのステップ 3 では、「JDK ソース・レベル」を 18 に設定します。
 - インストール・ウィザードのステップ 9 で、「コンテキスト・ルート」を `/Campaign` に設定します。
6. WebSphere® Integrated Solutions Console の左側のナビゲーション・パネルで、「アプリケーション」 > 「アプリケーション・タイプ」 > 「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」にナビゲートします。
7. 「エンタープライズ・アプリケーション」ウィンドウで、`Campaign.war` ファイルをクリックします。
8. 「Web モジュール・プロパティ」セクションで、「セッション管理」をクリックして、以下のチェック・ボックスを選択します。
 - 「セッション管理のオーバーライド」
 - 「Cookie を使用可能にする」

「Cookie を使用可能にする」をクリックし、「Cookie 名」フィールドに固有の Cookie 名を入力します。
9. サーバーの「アプリケーション」 > 「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した WAR ファイルを選択します。
10. 「詳細プロパティ」セクションで、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択します。
11. 「クラス・ローダー順序」セクションで、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」オプションを選択します。「WAR クラス・ローダー・ポリシー」セクションで、「アプリケーションの単一クラス・ローダー」オプションを選択します。

12. アプリケーションのコンテキスト・ルートを /Campaign と入力します。
13. 「アプリケーション・サーバー」 > 「(使用しているサーバー)」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」に移動します。
14. ユーザーは、以下の JVM 引数を追加して、この JVM で Unicode サポートを有効にできます。
 - -Dfile.encoding=UTF-8
 - -Dclient.encoding.override=UTF-8
15. 配置を開始します。

EAR ファイルから WAS への Campaign の配置

Campaign を含めた場合は、EAR ファイルを使用して製品を配置できます。

- ご使用の WebSphere® のバージョンが、必要なフィックス・パックまたはアップグレードも含めて、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていることを確認します。
- WebSphere® でデータ・ソースとデータベース・プロバイダーを作成したことを確認します。

1. WebSphere® Integrated Solutions Console に移動します。
2. 「アプリケーション」 > 「アプリケーション・タイプ」 > 「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」に移動し、「インストール」をクリックします。
3. 「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、「詳細 - すべてのオプションとパラメーターを表示」チェック・ボックスを選択して、「次へ」をクリックします。
4. 「続行」をクリックして、「新規アプリケーションのインストール」ウィザードを表示します。
5. 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのウィンドウでは、以下に挙げるウィンドウを除いて、デフォルト設定を受け入れます。
 - 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのステップ 1 では、「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」チェック・ボックスを選択します。
 - インストール・ウィザードのステップ 3 では、「JDK ソース・レベル」を 18 に設定します。
 - インストール・ウィザードのステップ 9 で、「コンテキスト・ルート」を /Campaign に設定します。
6. WebSphere® Integrated Solutions Console の左側のナビゲーション・パネルで、「アプリケーション」 > 「アプリケーション・タイプ」 > 「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」にナビゲートします。
7. 「エンタープライズ・アプリケーション」ウィンドウで、配置する EAR ファイルを選択します。
8. 「Web モジュール・プロパティ」セクションで、「セッション管理」をクリックして、以下のチェック・ボックスを選択します。
 - 「セッション管理のオーバーライド」
 - 「Cookie を使用可能にする」
9. 「Cookie を使用可能にする」をクリックし、「Cookie 名」フィールドに固有の Cookie 名を入力します。
10. 「サーバー」 > 「WebSphere Application Server」 > 「サーバー 1」 > 「セッション管理」 > 「Cookie を使用可能にする」を選択して、「セッション Cookie を HTTPOnly に設定して、クロスサイト・スクリプティング・アタックを阻止します」チェック・ボックスをクリアします。

11. 「詳細プロパティ」セクションで、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択します。
12. 「クラス・ローダー順序」セクションで、「最初に親クラス・ローダーをロードしたクラス」オプションを選択します。
13. campaign.ear で、「モジュールの管理」セクションを開き、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」オプションを選択します。
14. 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの各 War ファイルのクラス・ローダー」オプションを選択します。
15. 「アプリケーション・サーバー」 > 「(使用しているサーバー)」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」に移動します。
16. ユーザーは、以下の JVM 引数を追加して、この JVM で Unicode サポートを有効にできます。
 - `-Dfile.encoding=UTF-8`
 - `-Dclient.encoding.override=UTF-8`
17. 配置を開始します。

WebLogic への Unica Campaign の配置

Unica 製品を WebLogic に配置することができます。コンソールがアクセス不能、または存在しない場合は、VNC または Exceed のようなアプリケーションを使用してコンソールをエミュレートすることができます。Linux 環境で GUI モードの表示を有効にするには、技術管理者に連絡してください。

Unica キャンペーンを WebLogic に配置する際には、以下のガイドラインを使用してください。

- Unica 製品により、WebLogic で使用される JVM がカスタマイズされます。JVM 関連のエラーが発生した場合に、Unica 製品専用の WebLogic インスタンスを作成しなければならないことがあります。
 - 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。次のように設定する必要があります。JAVA_VENDOR=Sun。それが JAVA_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。JRockit はサポートされていません。選択されている SDK を変更する方法については、WebLogic の文書を参照してください。
 - Unica 製品を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。
 - UNIX™ システムの場合、グラフィカルなグラフを正常にレンダリングできるように、コンソールから WebLogic を始動する必要があります。コンソールは通常、サーバーが稼働しているマシンにあります。ただし、Web アプリケーション・サーバーが別の方法でセットアップされていることもあります。
- Telnet または SSH を介して UNIX™ マシンに接続すると、グラフのレンダリングで必ず問題が発生します。
- IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料を調べてください。
 - startWeblogic.cmd または startWeblogic.sh の JAVA_OPTIONS セクションに、以下のパラメーターを追加してください。

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

- Unica Campaign 環境で Unicode サポートを有効にする必要がある場合は、以下のパラメーターを追加します。

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

```
-Dclient.encoding.override=UTF-8
```

- 実稼働環境に配置している場合は、setDomainEnv スクリプトに次の行を追加して、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定します。

```
設定 MEM_ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m
```

- 特定の環境では、古い既存の対話式チャンネルまたは多数の配置履歴がある対話式チャンネルを配置すると、システムに負荷がかかる場合があります。2048MB 以上の Unica Campaign 設計時間および/または対話式ランタイム Java™ ヒープ・スペースが必要になる可能性があります。

システム管理者は、以下の JVM パラメーターを使用して配置システムで使用できるメモリー量を調整できます。

```
-Xms####m -Xmx####m -XX:MaxPermSize=256m
```

文字 #### は 2048 以上 (システム負荷により異なります) にする必要があります。2048 より大きい値にする場合は、通常 64 ビット・アプリケーション・サーバーおよび JVM が必要です。

これらは推奨される最小値です。実際のサイズ要件を分析して、必要に合った適切な値を決定してください。

SSL 環境に必要な追加の構成

12.0 リリース以降、Unica 製品の C++ コンポーネントの SSL は、OpenSSL によってサポートされます。

バージョン 10.0.x から 11.1.x の Unica 製品で SSL for C++ のコンポーネント (Unica Campaign リスナーなど) を実装した場合は、それらのコンポーネントについて以下のことを実行する必要があります。

- openssl 鍵ファイル (.pem) を作成する。
- GSKit を使用して新しい証明書を作成する。
- 新しい openssl 認証キーを作成する。
- オプションで、新しい証明書を作成または取得する。
- openssl 証明書または鍵を証明書にインポートする。
- 新しい証明書を使用するように、環境を構成する。

詳しくは、「Unica Platform 管理者ガイド」の第 14 章片方向 SSL の実装。

レポートを表示するように WebLogic を構成する (UNIX)

Unica Campaign を Unica Optimize と一緒に UNIX™ システムにインストールした場合、WebLogic Web アプリケーション・サーバーが Unica Optimize レポートにグラフを表示できるようにするには、java.awt.headless JVM プロパティを有効にする必要があります。

Weblogic JVM で、最適化レポート内でのグラフ表示を使用可能にするには、以下の手順に従います。

1. Weblogic サーバーが既に稼働中の場合は、シャットダウンします。
2. Weblogic サーバーの起動スクリプト (startWebLogic.sh) を見つけて、任意のテキスト・エディターで開きます。
3. JAVA_OPTIONS パラメーターを変更して以下の値を追加します。


```
-Djava.awt.headless=true
```

4. 起動スクリプトを保存した後、Weblogic サーバーを再始動します。

Unica Campaign サーバーの始動

Unica Campaign サーバーを始動するには、Unica Platform および Unica Campaign Web アプリケーションが配置され、稼働している必要があります。

Unica Campaign サーバーは、直接始動するか、またはサービスとしてインストールすることができます。

Unica Campaign リスナーの手動による始動

Unica Campaign リスナーを始動するには、Windows™ の場合は `cmpServer.bat` ファイルを、UNIX™ の場合は `rc.unica_ac` コマンドを実行します。

ご使用のオペレーティング・システムに対応する指示に従ってください。

Windows™

Unica Campaign インストール済み環境の `bin` ディレクトリーにある `cmpServer.bat` ファイルを実行することにより、Unica Campaign リスナーを始動します。`unica_aclsnr.exe` プロセスが「Windows™ タスク マネージャ」の「プロセス」タブに表示されていれば、それはサーバーが正常に始動したことを示しています。

UNIX™


`start` 引数を設定した `rc.unica_ac` プログラムを実行することにより、Unica Campaign リスナーを始動します。このコマンドは、`root` として実行する必要があります。例:

```
./rc.unica_ac start
```

`unica_aclsnr` プロセスが正常に開始したかどうかを判別するには、以下のコマンドを実行します。

```
ps -ef | grep unica_aclsnr
```

始動したサーバーのプロセス ID を判別するには、Unica Campaign インストール済み環境の `conf` ディレクトリーにある `unica_aclsnr.pid` ファイルを確認します。

 **注:** Unica Campaign はリスナーのクラスター化をサポートしているため、リスナーがダウンしたり異常終了した場合に自動的にリスナーを再始動するループが `rc.unica_ac` に追加されています。また、プロセス `rc.unica_ac` は、リスナーを開始した後も残ります。親プロセスは変わる可能性があります。例えば、リリース 8.6.0.4 からリリース 9.1.1 にアップグレードした場合は、`unica_aclsnr` の親プロセスは `init` (従来の親プロセス) ではなく `rc.unica_ac` に変わります。また、プロセス `rc.unica_ac` はリスナーを開始した後も残ります。

Unica Campaign リスナーを Windows サービスとしてインストールする方法

Unica Campaign リスナーを Windows™ サービスとしてインストールし、Windows™ が開始するときにはいつでも自動的に開始されるようにします。


1. Unica Campaign インストール・ディレクトリーの下にある bin ディレクトリーを、ユーザー PATH 環境変数に追加します。ユーザーの PATH 環境変数がない場合には、作成します。

このパスを、システム PATH 変数ではなく、必ずユーザー PATH 変数に追加するようにしてください。


Unica Campaign bin ディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある場合には、それを削除します。Unica Campaign リスナーをサービスとしてインストールするには、そのディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある必要はありません。


2. サーバーがサービスとしてインストールされている旧バージョンの Unica Campaign からアップグレードする場合には、サービスを停止してください。
3. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを Unica Campaign インストールの下の bin ディレクトリーに変更します。
4. Unica Campaign リスナーを Windows™ サービスとしてインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
unica_aclsnr -a
```

 **注:** -a オプションには、自動再始動の機能が含まれています。サービスが自動的に再始動を試行しないようにする場合は、unica_aclsnr -i を使用します。

これで、リスナーがサービスとしてインストールされました。

 **注:** CAMPAIGN_HOME がシステム環境変数として作成されたことを確認してから、Unica Campaign リスナー・サービスを開始します。


 **注:** 適切なリスナー・タイプを追加する必要があります。

5. 「Unica Campaign リスナー・サービス」プロパティ・ダイアログ・ボックスを開きます。「**ログイン**」タブをクリックします。
6. 「**このアカウント**」を選択します。
7. ユーザー名(システム・ユーザー)およびパスワードを入力して、サービスを開始します。

第6章. 配置後の Unica Campaign および Unica Optimize の構成

Unica Campaign を配置した後、Unica Campaign リスナーが実行されていることを確認し、Unica Campaign のシステム・ユーザーをセットアップし、Unica Campaign の構成プロパティーを設定し、Unica Campaign のインストールを検査する必要があります。

Unica のレポート機能を使用する場合は、「Unica Reports インストールおよび構成ガイド」で説明されているタスクを完了する必要があります。

 **注:** ホストされた E メールに対して Unica Deliver を使用可能にする予定である場合、標準の Unica Deliver パフォーマンス・レポートを表示するには、Unica レポート作成機能を使用する必要があります。


Unica Optimize 構成プロパティーを手動で設定する

Unica Optimize リスナーの構成プロパティーを設定する。Unica Optimize のホスト・サーバーの名前とポートを設定できます。Unica Platform サーバーに SSL を使用して接続するように Unica Optimize を構成することもできます。

インストール処理時に Unica Campaign インストーラーが Unica Platform システム・テーブルにアクセスできない場合、インストーラーにエラー・メッセージが表示されます。インストール処理は続行しますが、「設定」>「構成」から Unica Optimize 構成プロパティーを手動で設定してください。

必要に応じて、「キャンペーン」>「unicaACOListener」カテゴリーの下の、以下の Unica Optimize 構成プロパティーを手動で設定してください。


- **serverHost**
- **serverPort**
- **useSSL**

 **注:** 単一リスナー (非クラスター) がある場合

- リスナーが Campaign フローチャート用のみの場合は、次の場所で構成プロパティーを構成します。
「Campaign」>「unicaACListener」>
- リスナーが Optimize セッション用のみの場合は、次の場所で構成プロパティーを構成します。
「Campaign」>「unicaACOListener」>
- リスナーが Campaign フローチャートと Optimize セッション両方用の場合は、次の場所で両方の構成プロパティーを構成します。
「Campaign」>「unicaACListener」>
「Campaign」>「unicaACOListener」>

unicaACListener と unicaACOListener の下の以下のプロパティーには同じ値を指定する必要があります。これは、ただ1つのリスナーが Campaign と Optimize 両方を実行するためです。

- serverHost
- serverPort
- useSSL

 **注:** クラスター化リスナーがある場合、リスナー構成は、「Campaign」 > 「unicaACLListener」 > 「listenerNode」 構成プロパティに従って通常どおり定義されます。

リスナーが Campaign または Optimize、あるいはその両方用であるかを定義する、「listenerType」という追加の構成パラメーターがあります。

ListenerType - 1 - Campaign フローチャートのみ実行します

ListenerType - 2 - Optimize セッションのみ実行します

ListenerType - 3 - Campaign フローチャートと Optimize セッションを実行します

また、「Campaign」 > 「unicaACLListener」にある追加プロパティがリスナーに適用されます。

Unica Campaign リスナーが稼働中であるかどうかの検査

ユーザーがどの Unica Campaign 機能进行操作する場合でも、その前に Unica Campaign リスナーが稼働していなければなりません。リスナーは、ログインごと、およびアクティブ・フローチャートごとに別個の unica_acsvr プロセスを自動的に作成します。例えば、あるユーザーがログインしてフローチャートをオープンすると、リスナーは unica_acsvr.exe の 2 つのインスタンスを作成することになります。

Unica Campaign リスナーが稼働していることを確認するには、以下の手順を使用します。

1. ご使用のオペレーティング・システムに応じた手順を使用してください。

Windows™ では、「Windows™ タスク マネージャー」の「プロセス」タブで、unica_aclsnr.exe を見つけます。

UNIX™ では、次の例のように、ps コマンドを使用して、Unica Campaign サーバーを見つけてみます。ps -ef | grep unica_aclsnr

2. リスナーが稼働していない場合は、次のようにして再始動します。

Windows™ の場合は、Unica Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーにある、cmpServer.bat スクリプトを実行します。

UNIX™ では、システム・プロンプトで次のコマンドを入力することもできます。rc.unica_ac start

リスナーの自動始動など、リスナーの稼働に関する重要な詳細は、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

Unica Campaign システム・ユーザーのセットアップ

データベースに直接アクセスするための Unica Campaign システム・ユーザーをセットアップします。Unica Campaign に複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに対してシステム・ユーザーを作成してください。

システム・ユーザーとは、Unica アプリケーションで使用するよう構成された ユーザー・アカウントです。

ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さないようにするためには、システム・ユーザーを 1 つ以上のデータ・ソースに関連付けることができます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指定します。そのため、データ・ソースを参照することによって、データベースやその他の保護リソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを提供できます。複数のデータ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、そのシステム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることができます。

Unica Campaign では、システム・ユーザーが、システム・テーブルやその他のデータ・ソースにアクセスするためのログイン資格情報を保有します。


既存または新規の Unica ユーザー・アカウントを使用して、以下に説明するデータ・ソースに対する資格情報を保存します。

Unica の「設定」 > 「ユーザー」領域で、Unica ユーザーをセットアップして、ユーザーにデータ・ソースを割り当てます。その方法についての説明は、オンライン・ヘルプの該当するセクションを参照してください。

以下のデータ・ソースに対する資格情報を保有するユーザー・アカウントをセットアップします。

- Unica Campaign システム・テーブル (UA_SYSTEM_TABLES)
- すべての顧客 (ユーザー) テーブル

UNIX™ では、システム・ユーザーの「代替ログイン」属性に、Unica Campaign の UNIX™ ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX™ アカウントを入力します。

 **注:** 複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用することはできません。

「構成」 ページでのデータ・ソース・プロパティの追加

適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、Unica Campaign のそれぞれのデータ・ソースの「構成」ページにデータ・ソース・プロパティを追加します。

インストーラーを実行すると、Unica Campaign インストーラーは Unica Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレートをインポートします。

追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合は、Unica Platform configTool ユーティリティを使用して、それらのテンプレートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプに応じたテンプレートを、必要な数だけインポートできます。

例えば、Unica Platform および Unica Campaign のインストール済み環境で、以下のデータベースを使用しているとします。

- Oracle - システム・テーブル
- DB2® - 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2® - 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テンプレートをインポートする必要があります。

Unica Platform システム・テーブルと Unica Campaign システム・テーブルのデータベースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これらのシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、Oracle テンプレートをインポートします)。

手順については、[データ・ソース・テンプレートのインポート\(41 ページ\)](#) を参照してください。

テンプレートから新しいカテゴリを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロパティのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必要なだけ新しいカテゴリを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで 1 つの新規カテゴリを作成し、DB2® テンプレートで 2 つの新規カテゴリを作成します。[データ・ソース・テンプレートの複製\(41 ページ\)](#) を参照してください。

データ・ソース・プロパティを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴリのデータ・ソース構成プロパティを設定します。

手順については、[データ・ソースのプロパティ\(42 ページ\)](#) を参照してください。

データ・ソース・テンプレートのインポート

Unica Campaign システム・テーブルのデータ・ソース (UA_SYSTEM_TABLES) は、Oracle、DB2®, および SQL Server でのみサポートされます。Unica Campaign システム・テーブルをサポートしていないデータベース・タイプをサポートするには、configTool ユーティリティーを使用してユーザー・テーブル用のデータ・ソース・テンプレートをインポートします。

Unica Campaign データ・ソース・テンプレートは、Unica Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

テンプレートをインポートおよびエクスポートするには、Unica Platform configTool ユーティリティーを使用します。このユーティリティーは、Unica Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにあります。configTool について十分に理解していない場合は、このタスクを実行する方法の詳細について、[configTool\(70 ページ\)](#) を参照してください。

以下に、Oracle テンプレートをデフォルト・パーティション (Windows™ 環境) にインポートする場合に使用するコマンドの一例を示します。

```
configTool -i -p "Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f full_path_to_directory_containing_your_Oracle_template\OracleTemplate.xml
```

データ・ソース・テンプレートの複製

データ・ソース・カテゴリに新しい構成プロパティのセットを作成するには、データ・ソース・テンプレートを複製します。


1. 「構成」 ページで、複製するデータ・ソース・テンプレートにナビゲートします。

他のカテゴリと異なり、テンプレート・カテゴリのラベルはイタリックで、小括弧で囲まれています。

2. データ・ソース・テンプレートをクリックします。

「テンプレートからのカテゴリの作成」 ページが表示されます。

3. 「**新規カテゴリー名**」フィールドに名前を入力します (必須)。

 **注:** Unica Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、UA_SYSTEM_TABLES であることが必須です。

4. 必要に応じて、新しいカテゴリーに含まれるプロパティを編集します。また、これを後で行うこともできます。
5. 「**保存して終了**」をクリックします。

新規カテゴリーがナビゲーションツリーに表示されます。

Unica Campaign 構成プロパティ

Unica Campaign の基本インストールでは、「**構成**」ページで構成プロパティを指定する必要があります。また、「**構成**」ページを使用すると、重要な機能を実行するプロパティを指定し、オプションとしてそれらの機能を調整することができます。

データ・ソースのプロパティ

次の表に、それぞれの Unica Campaign データ・ソースについて指定する必要のあるプロパティに関する情報を記載します。

表 7. それぞれの Unica Campaign データ・ソースについてのプロパティ

プロパティ名	説明
ASMUserForDBCredentials	このプロパティには、 Unica Campaign システム・ユーザーのセットアップ(39 ページ) で Unica Campaign システム・ユーザーとして既に作成したユーザーを設定する必要があります。
DSN	SQL サーバーの場合、このプロパティには、作成した DSN (データ・ソース名) を設定します。Oracle および DB2® の場合、このプロパティにはデータベース名または SID (サービス) 名を設定します。
JndiName	このプロパティには、アプリケーション・サーバーに作成した、この特定のデータ・ソースに接続するための JNDI を設定します。 Tomcat の場合、JNDI 名には「java:/comp/env/」の接頭辞を付ける必要があります。 例: campaignPartition1DS は java:/comp/env/campaignPartition1DS となります
SystemTableSchema	SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、このプロパティには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。
OwnerForTableDisplay	SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、このプロパティには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。

データ・ソースは、Unica Campaign システム・テーブル・データベース、および Unica Campaign で使用する予定のすべての顧客 (ユーザー) データベースです。

注: Unica Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリ名は、`UA_SYSTEM_TABLES` であることが必須です。

値の設定について詳しくは、これらのプロパティのコンテキスト・ヘルプを参照するか、「Unica Platform 管理者ガイド」を参照してください。

Unica Campaign の基本インストールでは、データ・ソース・プロパティを作成して設定するだけでなく、「**構成**」ページで以下のプロパティを設定する必要があります。

- Campaign > unicaACOListener > serverHost
- Campaign > unicaACOListener > serverPort
- Campaign > unicaACLlistener > serverHost
- Campaign > unicaACLlistener > serverPort

同じリスナーが Campaign フローチャートの実行と Optimize セッションの実行の両方に使用されている単一ノードの Campaign 環境の場合、`unicaACOListener > serverPort` は `unicaACLlistener > serverPort` と同じ値である必要があります

- デフォルト・パーティションには、Campaign > partitions > partition1 のカテゴリに、必要に応じた値を設定します。

プロパティを変更した場合は、その変更を有効にするために Unica Campaign リスナーを再始動する必要があります。

Unica Campaign でのユーザー・テーブルのマッピング

ユーザー・テーブルのマッピングは、外部データ・ソースを Unica Campaign で利用できるようにするプロセスです。一般に、ユーザー・テーブルには、企業の顧客、見込み顧客、あるいは製品に関する情報が格納されます。データベース表または ASCII フラット・ファイルをデータ・ソースとして使用できます。構成したデータ・ソースのデータをフローチャート内のプロセスで利用できるようにするには、それらのデータ・ソースをすべてマップする必要があります。


ユーザー・テーブルをマップする方法については、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

注: ユーザー・テーブルは、システム・テーブルとは異なります。大半の Unica Campaign システム・テーブルは、システム・テーブル・データ・ソース名 `UA_SYSTEM_TABLES` が使用されていれば、初回のインストールと構

成のときに自動的にマップされます。接続上の問題によりシステム・テーブルを手動でマップする必要がある場合は、Unica Campaign からログアウトし、テーブルをマップしてから、再びログインしてください。

Unica Optimize のテーブルのマッピング

Unica Optimize システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Unica Campaign テーブルにマッピングすることで、Unica Optimize と Unica Campaign の間でデータを交換することができます。

 **注:** 戦略的セグメントで使用する Unica Campaign 内のセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルのマッピングはオプションです。オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルをマッピングするのは、戦略的セグメントを使用するフローチャートまたは Unica Optimize セッションでオーディエンスを使用する場合だけにしてください。

Unica Campaign のシステム・テーブルのマッピングについて詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

以下の手順を実行して、Unica Optimize のテーブルのマッピングを行います。

1. すべてのシステム・テーブルをマッピングします。
2. すべてのコンタクト履歴テーブルをマッピングします。

Unica Campaign 構成内の各オーディエンス・レベルにコンタクト履歴テーブルがあることを確認します。コンタクト履歴テーブルそれぞれをマッピングする必要があります。追加のコンタクト履歴テーブルについて詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

3. **オプション:** 戦略的セグメントを使用する Unica Optimize セッション内で使用されるオーディエンスごとに、オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルを、セグメント・メンバーを定義するデータベース表にマッピングします。

戦略的セグメントを使用する場合の要件は以下のとおりです。

戦略的セグメントを使用する予定の場合、Unica Campaign 構成の各オーディエンス・レベルに対してセグメント・メンバーシップ・テーブルがあることを確認してください。それぞれのセグメント・メンバーシップ・テーブルをマッピングする必要があります。

オーディエンス・セグメント・メンバーシップ・テーブルに2つのインデックスを作成します。最初のインデックスは SegmentID に、2番目のインデックスはオーディエンス・レベル列に作成します。出荷時の UA_SegMembership テーブルは、CustomerID と SegmentID にインデックスが設定されています。

システム・テーブルと戦略的セグメントについて詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

Unica Optimize システム・テーブル・マッピングのリファレンス

Unica Optimize を Unica Campaign と統合するには、すべての Unica Optimize システム・テーブルを Unica Campaign テーブルにマッピングします。

Unica Campaign の Unica Optimize テーブルをマッピングすることで、Unica Optimize と Unica Campaign の間でデータを交換することができます。すべての Unica Optimize システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Unica Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表を参考にして、Unica Optimize システム・テーブルと 対応するデータベース表に関する情報を収集します。

表 8. Unica Optimize システム・テーブル・マッピング

Unica Optimize システム・テーブル	データベース表
セッション最適化テーブル	UACO_OptSession
プロセス最適化テーブル	UACO_OptimizeProcess
最適化実行履歴テーブル	UACO_SesnRunHist
セッション・セグメント最適化テーブル	UACO_SesnSegment
オファー・セグメント最適化テーブル	UACO_OfferSeg
セッション・オファー最適化テーブル	UACO_SesnOffer
ルール最適化テーブル	UACO_Rule
例外ルール最適化テーブル	UACO_RException
例外ルール制約最適化テーブル	UACO_RExConstraint
ルール制約最適化テーブル	UACO_RConstraint
ルール・オファー・リスト最適化テーブル	UACO_ROfferList
ルール・オファー最適化テーブル	UACO_ROffer
ルール・セグメント最適化テーブル	UACO_RSegment
推奨コンタクト最適化ベース・テーブル	UACO_PCTBase
推奨属性最適化ベース・テーブル	UACO_POABase
最適化済みコンタクト最適化ベース・テーブル	UACO_OCTBase

Unica Optimize コンタクト履歴テーブル・マッピングのリファレンス

Unica Optimize を Unica Campaign と統合するには、すべての Unica Optimize コンタクト履歴テーブルを Unica Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表は、Unica Optimize コンタクト履歴テーブルと それらに対応するデータベース表をリストしています。

表 9. Unica Optimize コンタクト履歴テーブル・マッピング

コンタクト履歴テーブル	データベース表
顧客コンタクト履歴テーブル	UA_ContactHistory
顧客詳細コンタクト履歴テーブル	UA_DtlContactHist

追加するオーディエンス・レベル・テーブルの名前は、Unica Optimize の構成ごとに固有です。

Unica Campaign のインストールの検証

Unica Campaign をインストールおよび構成するためのすべてのステップを実行し終えたら、Unica Campaign Web アプリケーションを配置して、それが終わった後に Unica Campaign を構成します。これで、インストールを検査する準備が整います。


Unica Campaign 管理者役割 (asm_admin など) に既に存在するユーザーとして Unica にログインします (まだこれを行っていない場合)。「設定」 > 「ユーザー」で、新規ユーザーに少なくとも 1 つのセキュリティの役割 (例えば、グローバル・ポリシー/管理) を割り当てます。新規ユーザーに役割を割り当てた後、その新規ユーザーとして Unica Campaign にログインできます。

インストール済み環境を確認するには、次の手順に従ってください。

1. Unica にログインします。
2. 「設定」 > 「Campaign 設定」 > 「テーブル・マッピングの管理」ウィンドウで、すべてのシステム・テーブルがあることを確認します。
3. キャンペーンを作成し、そのキャンペーンにフローチャートを作成します。

Unica Optimize のインストールの検証

Unica Optimize が正しくインストールされている場合、Unica Campaign バッチ・フローチャートをビルドする際に Unica Campaign で Optimize プロセスを使用できるはずですが、これを確認するには、Unica にログインして、「Campaign」 > 「Optimize」にアクセスできることを確認します。

 **注:** Unica Optimize が正しくインストールまたはアップグレードされていることを確認する前に、**Affinium|Campaign|acoinstalled** プロパティが true に設定されていることを確認してください。**Affinium|Campaign|acoinstalled** が false に設定されていると、Unica Optimize がインストールされていないことを示すエラー・メッセージが出ます。

Unica Optimize テーブルを Unica Campaign テーブルにマップした後、Unica コンソールからいったんログアウトしてからログインしないと、「Campaign」 > 「Optimize セッション」が表示されないことがあります。

以下の手順を実行して、Unica Optimize のインストールを検証します。

1. Unica コンソールにログインします。
2. メニューから「Campaign」 > 「Optimize」を選択します。
「Optimize セッション一覧」ページが表示されます。Unica Optimize セッションが表示され、管理できるようになっていることを確認します。

フローチャートを検索可能にしておく

Unica Campaign をバージョン 10.0 より前のリリースからバージョン 10.1 にアップグレードする場合は、フローチャートを検索可能にしておく必要があります。

この作業は adv_SrchUtil ユーティリティを使用して行えます。adv_SrchUtil ユーティリティは、指定したパーティション内のすべてのキャンペーン・フローチャートおよびセッション・フローチャートについて、フローチャート .ses ファイルの検索インデックスを作成または修復するラッパー・スクリプトです。

このユーティリティについて詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

Unica 製品との統合のためのプロパティの設定

Unica Campaign は、さまざまなアプリケーションを統合します。必要であれば、Unica Campaign とその他の製品との統合をセットアップするための構成プロパティを指定できます。

セキュリティ強化のための追加構成

このセクションの手順では、Web アプリケーション・サーバーの追加構成について説明します。これらはオプションの構成ですが、実行するとセキュリティを強化できます。

X-Powered-By フラグを無効にする

組織で、ヘッダー変数内の X-Powered-By フラグがセキュリティ・リスクになることが懸念される場合、次の手順を使用してこのフラグを無効にすることができます。

1. WebLogic を使用している場合、管理コンソールの **domainName** 「構成」 > 「Web アプリケーション」で、「X-Powered-By ヘッダー」を「X-Powered-By ヘッダーを送信しない」に設定します。
2. WebSphere® を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. WebSphere® 管理コンソールで、「サーバー」 > 「サーバー・タイプ」 > 「WebSphere Application Servers」 > 「server_name」 > 「Web コンテナ設定」 > 「Web コンテナ」に移動します。
 - b. 「追加プロパティ」で、「カスタム・プロパティ」を選択します。
 - c. 「カスタム・プロパティ」ページで、「新規」をクリックします。
 - d. 「設定」ページで、com.ibm.ws.webcontainer.disablePoweredBy という名前のカスタム・プロパティを作成し、値を false に設定します。
 - e. 「適用」または「OK」をクリックします。
 - f. コンソール・タスクバーの「保存」をクリックして、構成の変更を保存します。
 - g. サーバーを再起動します。

制限された Cookie パスの構成

Web アプリケーション・サーバーでは、セキュリティを強化するために Cookie アクセスを特定のアプリケーションに制限できます。制限しない場合、Cookie は、配置されたすべてのアプリケーションで有効になります。

1. WebLogic を使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. 制限された Cookie パスを追加する WAR パッケージまたは EAR パッケージから weblogic.xml ファイルを抽出します。
- b. 以下のコードを weblogic.xml ファイルに追加します。 *context-path* は配置されているアプリケーションのコンテキスト・パスです。Unica アプリケーションでは、コンテキスト・パスは通常 /unica です。

```
<session-descriptor>
  <session-param>
    <param-name>CookiePath</param-name>
    <param-value>/context-path</param-value>
  </session-param>
</session-descriptor>
```

- c. WAR または EAR ファイルを再ビルドします。

2. WebSphere® を使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. WebSphere® 管理コンソールで、「セッション・マネージャー」 > 「Cookie」 タブにナビゲートします。
- b. 「Cookie パス」 にアプリケーションのコンテキスト・パスを設定します。
Unica アプリケーションでは、コンテキスト・パスは通常 /unica です。

Unica Campaign 詳細検索エージェントの開始

Unica Campaign 詳細検索エージェントを使用して、Unica Campaign で作成したフローチャートを検索できます。フローチャートが作成または変更されたときに詳細検索エージェントが実行されていた場合にのみ、フローチャートを検索できます。

Unica Campaign 詳細検索エージェントを開始するには、事前に Unica Platform および Unica Campaign Web アプリケーションを配置して実行しておく必要があります。

Unica Campaign 詳細検索エージェントを手動で開始するには、以下の手順を実行します。

1. Windows の場合は、Unica Campaign インストールの下の bin ディレクトリーに移動し、advSrchAgent.bat を実行します。
advSrchAgent.bat ファイルがプロンプトで実行され続けます。

2. Unix の場合は、Unica Campaign インストールの下の bin ディレクトリーに移動し、advSrchAgent.sh を実行します。

advSrchAgent.sh ファイルがプロンプトで実行され続けます。

UNIX オペレーティング・システムでは、以下のコマンドを実行して Unica Campaign 詳細検索エージェントを開始できます。

```
./advSrchAgent.sh partition1
Usage:
./advSrchAgent.sh <start | stop> <partition_name> [cluster_home] [-u <user_name>] [-p <password>]
Where:
<start | stop> : Start or stop the agent.
<partition_name> : Name of the partition from which flowchart files are to be exported.
[cluster_home] : Home directory of clustered environment, if clustering is enabled.
[-u <user_name>] : User name for user who has read access to all flowchart files in the partition specified.
[-p <password>] : Password of the user specified
```

第7章. Unica Campaign の複数パーティションの構成

Unica 製品ファミリーでは、パーティションは、異なるユーザー・グループに関連付けられているデータを保護する手段となります。Unica Campaign または 関連する Unica アプリケーションを複数のパーティションで作業するように構成すると、ユーザーには、各パーティションがアプリケーションの別々のインスタンスとして表示されます。同じコンピューター上にある別のパーティションの存在が示されることはありません。

複数パーティションの動作

Unica アプリケーションを Unica Campaign と一緒に操作する場合、アプリケーションを構成できるのは、Unica Campaign インスタンスが構成されているパーティションです。各パーティション内のアプリケーション・ユーザーは、同じパーティション内の Unica Campaign 用に構成されている Unica Campaign 機能、データ、顧客テーブルにアクセスできます。

パーティションの利点

複数パーティションは、ユーザーのグループ間に強力なセキュリティーを設定する場合に便利です。各パーティションには、独自の Unica Campaign システム・テーブルのセットがあるためです。複数パーティションは、複数のユーザー・グループ間でデータを共有したい場合には使用できません。

各パーティションには、独自の構成設定があり、ユーザーのグループごとに Unica Campaign をカスタマイズできます。ただし、すべてのパーティションが同じインストール・バイナリーを共有します。すべてのパーティションで同じバイナリーを共有していれば、複数パーティションのインストールやアップグレードに要する労力を最小限にすることができます。

パーティションのユーザー割り当て

パーティションへのアクセスは、Unica Platform グループのメンバーシップを介して管理されます。

パーティションのスーパーユーザー (platform_admin) を除き、各 HCL ユーザーは、1つのパーティションにしか設定できません。複数のパーティションにアクセスする必要のあるユーザーは、それらのパーティションごとに個別のユーザー・アカウントを持つ必要があります。

パーティションが1つしかない場合は、Unica Campaign にアクセスするためにそのパーティションにユーザーを明示的に割り当てる必要はありません。

パーティション・データへのアクセス

複数パーティション構成では、パーティションには次のようなセキュリティーの特性があります。

- パーティションに割り当てられているグループのメンバー以外のユーザーは、そのパーティションにアクセスできない。
- あるパーティションのユーザーは、別のパーティションのデータを参照したり変更したりすることができない。
- ユーザーは Unica Campaign の参照ダイアログ・ボックスから、割り当てられているパーティションのルート・ディレクトリーより上の Unica Campaign ファイル・システムにはナビゲートできない。例え

ば、partition1 および partition2 という名前の 2 つのパーティションがあり、ユーザーが partition1 に関連付けられたグループのメンバーである場合は、ダイアログ・ボックスから partition2 のディレクトリー構造にはナビゲートできません。

複数のパーティションのセットアップ


Unica Campaign に複数のパーティションを構成することにより、Unica Campaign の異なるユーザーのグループごとにデータを分離して保護することができます。各パーティションはそれぞれ固有の構成プロパティのセットを持つため、ユーザーのグループごとに Unica Campaign をカスタマイズできます。

Unica Campaign に追加のパーティションを構成する前に、構成するパーティションごとに以下のタスクを実行します。

1. Unica Campaign システム・テーブル用のデータベースまたはスキーマを作成します
2. ODBC 接続またはネイティブ接続を作成します
3. Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成します


Campaign に複数のパーティションをセットアップするには、以下のタスクを実行します。

1. システム・テーブル・データベース、およびパーティションに必要な他のすべてのデータ・ソースを作成します。その後、データ・ソースにアクセスするために必要な JDBC および ODBC 接続またはネイティブ接続を構成します。
2. パーティションごとに、システム・テーブルを格納するための異なるスキーマをデータベースに作成します。
Campaign に同梱されているデータベース固有のスクリプトを使用して、システム・テーブルを作成してデータを設定します。
3. 追加のパーティションごとに、ディレクトリー構造を作成する以下のタスクを実行します。


 **注:** バックアップにする目的で、元の partition1 ディレクトリーのクリーン・コピーを保存してください。

- a. Unica Campaign インストール済み環境の partitions ディレクトリーで、追加するパーティションごとに、すべてのサブディレクトリーが含まれるようにデフォルト partition1 ディレクトリーの複製を作成します。
- b. 各パーティション・ディレクトリーに一意的な名前を付けます。後ほど「構成」ページでパーティションの構成ツリーを作成するときには、これらの名前と正確に同じ名前をパーティションに使用します。
2 番目のパーティションを作成するために Campaign/partitions/partition2 という名前のディレクトリーを作成した場合、「構成」ページで構成ツリーを作成するとき、名前「partition2」を使用してこのパーティションを識別しなければなりません。
- c. 複製パーティション・サブディレクトリー内に存在するすべてのファイルを削除します。

4. `-s` オプションを指定した `partitionTool` ユーティリティを使用してデフォルト・パーティションを複製するために、以下のタスクを実行します。

 **注:** このオプションを使用しない場合は、この手順を実行する前に、Unica Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを停止する必要があります。

- a. `JAVA_HOME` 環境変数を、Unica Platform インストール済み環境の `tools/bin` ディレクトリーにある `setenv` スクリプトに設定するか、または `partitionTool` ユーティリティを実行するコマンド・ライン・ウィンドウで設定します。
- b. コマンド・ライン・ウィンドウを開き、Unica Platform インストール済み環境の `tools/bin` ディレクトリーからユーティリティを実行します。適切なコマンドおよびオプション (「Unica Platform 管理者ガイド」で説明) を使用して、目的の結果を達成します。
`partitionTool -c -s partition1 -n partition2`
- c. 作成する必要がある新しいパーティションごとに、この手順を繰り返します。
- d. 完了したら、Unica Platform が配置されているアプリケーション・サーバーを停止して再始動し、作成されたグループを確認します。

 **注:** このユーティリティの使用方法について詳しくは、[partitionTool\(77 ページ\)](#) を参照してください。

5. 新規パーティションごとに `New partitionTemplate` を使用して「**構成**」ページにパーティション構造を作成するために、以下のタスクを実行します。

- a. 「**構成**」ページで、「**Campaign**」 > 「**パーティション**」にナビゲートし、(`partitionTemplate`) をクリックします。

リストに (`partitionTemplate`) プロパティが表示されていない場合には、`configTool` ユーティリティで以下のようなコマンドを使用して、パーティション・テンプレートをインポートしてください。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions"
-f <CAMPAIGN_HOME>/conf/partitionTemplate.xml
```

`CAMPAIGN_HOME` は、Unica Campaign インストール済み環境への実際のパスで置き換えます。


`configTool` ユーティリティは、Unica Platform インストール済み環境の `tools` ディレクトリーにあります。このユーティリティについて詳しくは、「Unica Platform 管理者ガイド」を参照してください。

右側のペインに、「**新しいカテゴリー名**」フィールドが空の状態に「`partitionTemplate`」ペインが表示されます。

- b. 新しいパーティションの名前を入力します。この名前には、[複数のパーティションのセットアップ\(51 ページ\)](#) でファイル・システムにパーティションのディレクトリーを作成したときと同じ名前を使用します。

c. 「変更を保存」をクリックします。

パーティション・テンプレートと同じカテゴリとプロパティを持つ新しいパーティション構造が表示されます。

 **注:** Campaign に複数のパーティションがある場合は、アップグレード中にユーザーがすべてのパーティションをアップグレードする必要があります。

パーティション・スーパーユーザー

Unica Platform のユーザー全体でセキュリティを管理するには、システム内のすべてのセキュリティ設定およびユーザー・アカウントにアクセスできるユーザー・アカウントが存在していなければなりません。

デフォルトでは、このユーザー・アカウントは platform_admin です。このユーザー・アカウントは、特定の 1 つのパーティションには属さず、すべてのパーティション内のすべてのユーザー・アカウントにアクセスできます。

管理者は、同じアクセス・レベルを持つ追加ユーザーを作成できます。パーティション・スーパーユーザーになるためには、アカウントが Unica Platform に対する管理アクセス権限を持ち、「ユーザー」、「ユーザー・グループ」、および「ユーザーの権限」ページに対するフルアクセス権限を持つ必要があります。パーティション・スーパーユーザーには、製品固有のセキュリティ・ページ (Unica Campaign セキュリティ・ページなど) に対するアクセス権限は不要です。

パーティションのデータ・ソース・プロパティの構成

作成するそれぞれのパーティションについて、データ・ソース・プロパティを構成する必要があります。適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、データ・ソース・プロパティを作成します。

インストーラーを実行すると、Unica Campaign インストーラーは Unica Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレートをインポートします。


追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合は、Unica Platform configTool ユーティリティを使用して、それらのテンプレートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプに応じたテンプレートを必要な数だけインポートできます。

例えば、Unica Platform および Unica Campaign のインストール済み環境で、以下のデータベースを使用しているとします。

- Oracle - システム・テーブル
- DB2® - 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2® - 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テンプレートをインポートする必要があります。

Unica Platform システム・テーブルと Unica Campaign システム・テーブルのデータベースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これらのシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、Oracle テンプレートをインポートします)。

 **注:** 新規パーティションを作成する場合、configTool ユーティリティを使用して、システム・テーブルおよびユーザー・テーブル用にデータ・ソース・テンプレートをインポートする必要があります。

手順については、[データ・ソース・テンプレートのインポート\(41 ページ\)](#)を参照してください。

テンプレートから新しいカテゴリを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロパティのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必要なだけ新しいカテゴリを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで1つの新規カテゴリを作成し、DB2® テンプレートで2つの新規カテゴリを作成します。[データ・ソース・テンプレートの複製\(41 ページ\)](#)を参照してください。

データ・ソース・プロパティを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴリのデータ・ソース構成プロパティを設定します。

手順については、[Unica Campaign 構成プロパティ\(42 ページ\)](#)を参照してください。

各パーティションのデータ・ソース・プロパティを構成するために、以下のタスクを実行します。

1. 適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、Unica Campaign のそれぞれのデータ・ソースの「**構成**」ページにデータ・ソース構成プロパティを追加します。

インストーラーを実行すると、Unica Campaign インストーラーは Unica Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレートをインポートします。追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合は、Unica Platform configTool ユーティリティを使用して、それらのテンプレートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプに応じたテンプレートを、必要な数だけインポートできます。

例えば、Unica Platform および Unica Campaign のインストール済み環境で、以下のデータベースを使用しているとします。

- Oracle - システム・テーブル
- DB2® - 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2® - 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テンプレートをインポートする必要があります。

Unica Platform システム・テーブルと Unica Campaign システム・テーブルのデータベースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これらのシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、Oracle テンプレートをインポートします)。手順については、[データ・ソース・テンプレートのインポート\(41 ページ\)](#)を参照してください。

2. テンプレートから新しいカテゴリを作成します。これにより、新しいデータ・ソース構成プロパティのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必要なだけ新しいカテゴリを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで1つの新規カテゴリを作成し、DB2® テンプレートで2つの新規カテゴリを作成します。[データ・ソース・テンプレートの複製\(41 ページ\)](#)を参照してください。
3. Unica Campaign のそれぞれのデータ・ソースについて、データ・ソース構成プロパティを設定します。詳しくは、[Unica Campaign 構成プロパティ\(42 ページ\)](#)を参照してください。

Unica Campaign のシステム・ユーザーのセットアップ

システム・ユーザーに1つ以上の Unica Platform データ・ソースを関連付けることにより、ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さないようにできます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指定します。データ・ソースを参照することにより、データベースまたはその他の保護リソースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを提供できます。複数のデータ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、そのシステム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることができます。


Unica アプリケーションは、以下の属性を使用して構成されたシステム・ユーザー・アカウントを必要とする場合があります。

- システム・テーブルやその他のデータ・ソースにアクセスするためのログイン資格情報。
- システム内でオブジェクトを作成、変更、および削除するための特定の権限。

新規ユーザーのセットアップおよびユーザーへのデータ・ソースの割り当てについては、「Unica Platform 管理者ガイド」を参照してください。

Unica Campaign のシステム・ユーザーをセットアップするには、以下の操作を実行します。

1. 既存または新規のユーザー・アカウントを使用して、以下のデータ・ソースに対する資格情報を保存します。
 - Unica Campaign システム・テーブル
 - すべての顧客(ユーザー) テーブル
2. UNIX™ では、システム・ユーザーの「**代替ログイン**」属性に、Unica Campaign の UNIX™ ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX™ 名を入力します。

 **注:** 複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに対してシステム・ユーザーを作成する必要があります。

複数のパーティションがある場合の IBM Cognos Reports の使用

IBM Cognos® レポートを、Unica Campaign、Unica Deliver、または Unica Interact の複数のパーティションで使用するには、IBM Cognos® のレポート・パッケージをパーティションごとに構成する必要があります。

詳しくは、「Unica Reports インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

パーティションへの役割、権限、およびグループの割り当て

Unica Campaign 用に構成したパーティションを使用するには、その前に各パーティション内の管理者の役割を持つユーザーに役割を割り当てる必要があります。さらに、各パーティションにグループを割り当てる必要もあります。

partitionTool ユーティリティを使用して、作成する各パーティションにデフォルトの管理ユーザーを作成してください。

各パーティションの管理ユーザーに役割を割り当てる - partitionTool ユーティリティは、作成するパーティションごとに、デフォルトの管理ユーザーを作成します。「**ユーザー**」ページで、新規ユーザーに少なくとも1つのセキュリティ

ティーの役割 (例えば、グローバル・ポリシー/管理) を割り当てます。新規ユーザーに役割を割り当てた後、その新規ユーザーとして Unica Campaign パーティションにログインできます。

複数の Unica Campaign パーティションで Unica Deliver を使用可能にする予定の場合は、Unica Campaign パーティションごとに対応する Unica Deliver パーティションを構成する必要があります。Unica Deliver の追加パーティションの作成について詳しくは、[Unica Deliver での複数のパーティションの構成\(59 ページ\)](#) を参照してください。

第 8 章. Unica Optimize の複数パーティションの構成

Unica 製品ファミリーでは、パーティションは、異なるユーザー・グループに関連付けられているデータを保護する手段となります。Unica Campaign または 関連する Unica アプリケーションを複数のパーティションで作業するように構成すると、ユーザーには、各パーティションがアプリケーションの別々のインスタンスとして表示されます。同じコンピューター上にある別のパーティションの存在が示されることはありません。

複数パーティションの動作

Unica アプリケーションを Unica Campaign と一緒に操作する場合、アプリケーションを構成できるのは、Unica Campaign インスタンスが構成されているパーティションです。各パーティション内のアプリケーション・ユーザーは、同じパーティション内の Unica Campaign 用に構成されている Unica Campaign 機能、データ、顧客テーブルにアクセスできます。

パーティションの利点

複数パーティションは、ユーザーのグループ間に強力なセキュリティーを設定する場合に便利です。各パーティションには、独自の Unica Campaign システム・テーブルのセットがあるためです。複数パーティションは、複数のユーザー・グループ間でデータを共有したい場合には使用できません。

各パーティションには、独自の構成設定があり、ユーザーのグループごとに Unica Campaign をカスタマイズできます。ただし、すべてのパーティションが同じインストール・バイナリーを共有します。すべてのパーティションで同じバイナリーを共有していれば、複数パーティションのインストールやアップグレードに要する労力を最小限にすることができます。

パーティションのユーザー割り当て

パーティションへのアクセスは、Unica Platform グループのメンバーシップを介して管理されます。

パーティションのスーパーユーザー (platform_admin) を除き、各 HCL ユーザーは、1 つのパーティションにしか設定できません。複数のパーティションにアクセスする必要のあるユーザーは、それらのパーティションごとに個別のユーザー・アカウントを持つ必要があります。

パーティションが 1 つしかない場合は、Unica Campaign にアクセスするためにそのパーティションにユーザーを明示的に割り当てる必要はありません。

パーティション・データへのアクセス

複数パーティション構成では、パーティションには次のようなセキュリティーの特性があります。

- パーティションに割り当てられているグループのメンバー以外のユーザーは、そのパーティションにアクセスできない。
- あるパーティションのユーザーは、別のパーティションのデータを参照したり変更したりすることができない。
- ユーザーは Unica Campaign の参照ダイアログ・ボックスから、割り当てられているパーティションのルート・ディレクトリーより上の Unica Campaign ファイル・システムにはナビゲートできない。例え

ば、partition1 および partition2 という名前の 2 つのパーティションがあり、ユーザーが partition1 に関連付けられたグループのメンバーである場合は、ダイアログ・ボックスから partition2 のディレクトリー構造にはナビゲートできません。

Unica Optimize の複数パーティションのセットアップ

Unica Optimize で複数パーティションを使用して、ユーザーのグループごとにそれぞれ異なる Unica Optimize および Unica Campaign データのセットにアクセスできるようにします。

12.0 リリース以降 - Unica Optimize は Unica Campaign とともにインストールされます。Campaign 用に作成されたデフォルトの partition1 ディレクトリーが、Optimize に使用されます。Unica Campaign 用に作成された追加のパーティションを、Optimize に使用できます。V 12.0 リリース以降、Optimize は Campaign アプリケーションにデフォルトで付属しています。ユーザーがパーティションを作成すると、Optimize のパーティションもサポートされます。つまり、Optimize のパーティションが必要な場合は、Campaign のパーティションも作成する必要があります。

以下の手順を実行して、Unica Optimize 用の複数パーティションをセットアップします。

1. Unica Campaign パーティションを作成します。
2. 古い ContactOptimization/partitions/partition2 ディレクトリーの内容を、そのすべての (空の) サブディレクトリーとともに、新しいパーティション用に作成したディレクトリーにコピーします。

例えば、partition2 ディレクトリーの内容を

Campaign_Home/partitions/partition2 ディレクトリーにコピーします

3. SQL スクリプトを実行して、新しいパーティション用に構成されたデータベース内に Unica Optimize システム・テーブルを作成して、データを設定します。

SQL スクリプトの実行について詳しくは、『手動による Unica Optimize システム・テーブルの作成とデータ設定』のトピックを参照してください。


4. 作成する必要があるパーティションごとに、手順 2 から 4 までを繰り返します。開始点として、一番新しく作成されたディレクトリーを使用してください。

 **注:** デフォルトでは、パーティションは partitions ディレクトリーにインストールされます。


第9章. Unica Deliver での複数のパーティションの構成

Unica Deliver に複数のパーティションを構成することにより、Unica Deliver の異なるユーザーのグループごとにデータを分離して保護することができます。各パーティションはそれぞれ固有の構成プロパティのセットを持つため、ユーザーのグループごとに Unica Deliver をカスタマイズできます。

Unica Deliver をインストールすると、Unica Platform に Unica Deliver のデフォルト・パーティションが作成されます。Unica Deliver の追加のパーティションを構成できます。Unica Deliver に作成する各パーティションは、Unica Campaign に作成されたパーティションと連動します。

 **注:** Unica Deliver に複数のパーティションを構成するには、それぞれに対応するパーティションを Unica Campaign に構成する必要があります。

Unica Deliver に新しいパーティションを追加するには、Unica Deliver および Unica Campaign の Unica Platform 構成に変更を加える必要があります。

 **重要:** Unica Deliver および Unica Campaign の構成を変更したら、Unica Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動し、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を再始動する必要があります。Unica Campaign リスナーを再始動しなければならない場合もあります。

変更を加える前に、既存の構成をバックアップしておいてください。

Unica Deliver のパーティション概要

Unica Deliver のパーティションを作成することで、異なるユーザーのグループごとにデータを分離して保護できます。各パーティションは、Unica Deliver の個別のインスタンスとしてユーザーに表示されます。同じシステムに他のパーティションが存在することを示すものではありません。各パーティションは、それぞれに固有の構成プロパティのセットを持つため、ユーザーのグループごとに Unica Deliver をカスタマイズできます。

各パーティション内のユーザーは、そのパーティションに構成されている機能、データ、および顧客テーブルにのみアクセスすることができます。例えば、partition1 および partition2 という名前のパーティションを作成した場合、partition1 内で作業している Unica Deliver ユーザーは、partition1 内に構成されている顧客テーブルから E メール受信者を選択することはできますが、partition2 内に構成されている E メール受信者を選択することはできません。HCL は、ユーザーがデータを共有する必要がある場合には、複数のパーティションを作成することを推奨していません。

複数のパーティションで作業する場合は、Unica Deliver のパーティションに固有の特性、および Unica Deliver のパーティションが Unica Campaign のパーティションにどのように関係するかを理解する必要があります。また、Unica Deliver の複数のパーティションを作成して構成する際のワークフローを十分に理解する必要もあります。

Unica Deliver のパーティションの特性

Unica Deliver に新しいパーティションを作成して構成するときには、以下の点に注意してください。

- Unica Deliver のパーティションを作成する方法は、Unica Campaign のパーティションを作成する方法とは異なります。

Unica Deliver に新しいパーティションを作成するには、Unica Platform の Deliver 構成プロパティで使用可能なパーティション・テンプレートを使用します。

- 各 Unica Deliver パーティションの名前は、対応する Unica Campaign パーティションの名前と完全に一致している必要があります。
- Unica Deliver に作成する各パーティションは、HCL Unica に接続可能でなければなりません。

各パーティションに対し、別個の HCL Unica アカウントを要求する必要があります。ではアカウントに接続されたユーザー名およびパスワードが提供されます。Unica Deliver が HCL Unica に接続する際に、これらのアクセス資格情報を自動的に提供できる Unica Platform データ・ソースを構成する必要があります。

アカウントの要求方法について詳しくは、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。

Unica Campaign のパーティションとの関係

Unica Deliver の各パーティションは、Unica Platform で Unica Campaign に対して作成された特定のパーティションと連動します。Unica Campaign パーティションは、以下を提供します。

- Deliver システム・テーブルを格納する Unica Campaign スキーマ
- パーティション内の Unica Campaign のファイル構造。これには、Unica Deliver が受信者リストを作成および処理するために使用するディレクトリーも含まれます。
- パーティション内での受信者リストの作成、および Unica Deliver の使用可能化に関連する構成プロパティ

Unica Deliver は、特定のパーティション内の Unica Campaign と連動するため、Unica Deliver と Unica Campaign のパーティション構造が同じ名前を指定していなければなりません。パーティション名は、完全に一致する必要があります。

Unica Deliver に複数のパーティションを構成するためのロードマップ

Unica Deliver にパーティションを作成するには、Unica Platform 構成の中に存在する Unica Campaign 内のパーティションと正確に同じ名前を使用します。

Unica Deliver 用の新規パーティションを作成する前に、Unica Campaign および Unica Deliver 内のパーティションに関する Unica Deliver のすべての前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

Unica Deliver の新規パーティションを作成するには、以下の手順に従います。

1. [Unica Deliver の新規パーティションの作成\(61 ページ\)](#)
2. [パーティション用の Unica Deliver システム・テーブルの準備\(62 ページ\)](#)
3. [HCL Unica にアクセスするシステム・ユーザーの構成\(64 ページ\)](#)
4. [Unica Campaign で新規パーティションに対応するように Unica Deliver を使用可能にする\(65 ページ\)](#)
5. [Unica Deliver の受信者リスト・アップローダーの場所の指定\(66 ページ\)](#)
6. [Unica Deliver を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動\(66 ページ\)](#)
7. [Unica Deliver パーティションの構成および接続のテスト\(67 ページ\)](#)

Unica Deliver の新規パーティションの作成

Unica Deliver をインストールすると、Unica Platform に Unica Deliver のデフォルト・パーティションが作成されます。Unica Deliver のために複数のパーティションを作成することにより、異なるユーザーのグループごとにデータを分離して保護することができます。

Unica Deliver のためにパーティションを作成して構成する前に、Unica Deliver および Unica Campaign について以下の要件を満たす必要があります。

- Unica Deliver に複数のパーティションを作成する前に、Unica Deliver に関する以下のタスクを完了します。
 - サポートに連絡して、各パーティションのアカウントと資格情報を要求します。パーティションごとに別個の Unica Journey アカウントとアクセス権限の資格情報が必要です。詳しくは、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。
 - パーティションの Unica Campaign スキーマに作成する予定の Unica Deliver システム・テーブルにアクセス可能なシステム・ユーザーを作成します。

Unica Campaign パーティション用に作成したシステム・ユーザーを更新して、そのユーザーも Unica Deliver システム・テーブルにアクセスできるようにすることが可能です。


- Unica Deliver に複数のパーティションを作成する前に、Unica Campaign で以下のタスクを完了します。
 - Unica Deliver 用に作成するパーティションと連動するパーティションを Unica Campaign に作成します。パーティションの名前を記録します。
 - Unica Campaign パーティション内に Unica Campaign システム・テーブルを作成します。
 - パーティション内のシステム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーを構成します。

複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用することはできません。

インストーラーは、初期インストール時に Unica Deliver 構成プロパティとデフォルト・パーティションを登録します。デフォルト・パーティションには、追加パーティションを作成するためにコピーできるテンプレートが組み込まれています。

Unica Deliver の新規パーティションを作成するには、以下の操作を実行します。

1. Deliver > partitions > (partition) にナビゲートして、パーティション・テンプレートを複製します。
2. 新しいパーティションに名前を付けます。

 **注:** Unica Deliver では、作成後のパーティションの削除をサポートしていません。

パーティション・テンプレートの識別


「構成」ページでは、デフォルト・パーティションのナビゲーション・ツリーに Unica Deliver パーティション・テンプレートが表示されます。ツリー内でパーティション・テンプレートを識別できるように、パーティション・テンプレートのラベルは括弧で囲まれた斜体となっています。

新規パーティションの命名

新しいパーティションに名前を付ける際には、以下の制約が適用されます。

- ツリー内で兄弟関係にあるカテゴリ間で (つまり同じ親カテゴリを共有するカテゴリ間で) 固有の名前である必要があります。
- パーティション名をピリオドで開始することはできません。さらに、パーティション名に以下の文字を使用することはできません。

! “ ” ’ # \$ % & () * + : ; ,
 ^ < > + ? @ [] { } / \ ` ~

 **注:** Unica Deliver は特定のパーティション内の Unica Campaign と連動するため、Unica Deliver と Unica Campaign のパーティションは同じパーティション名を指定していなければなりません。

パーティション用の Unica Deliver システム・テーブルの準備

Unica Deliver に作成するパーティションごとに、そのパーティションが Unica Campaign スキーマ内で使用する Unica Deliver システム・テーブルを作成してデータを追加し、構成する必要があります。

パーティション用の Unica Deliver システム・テーブルを準備するには、以下の操作を実行します。

1. Unica Deliver システム・テーブルを作成します。
データベース・クライアントで、システム・テーブルを作成する SQL スクリプトを Unica Campaign データベースに対して実行します。
2. 作成したテーブルにデータを追加します。
データベース・クライアントを使用して、テーブルにデータを追加するスクリプトを Unica Campaign データベースに対して実行します。SQL スクリプトについては、[手動による Unica Deliver システム・テーブルの作成とデータ設定\(63 ページ\)](#) の参照表でスクリプト名および場所を確認してください。
3. パーティションの Deliver 構成に以下の構成プロパティを設定し、そのパーティションの Unica Campaign システム・ユーザーに対して構成したユーザー名およびプラットフォーム・データ・ソースを指定します。

- Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > asmUserForDBCredentials
- Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > amDataSourceForDBCredentials

Unica Deliver は、Unica Platform で構成されたシステム・ユーザーを使用して、パーティションのシステム・テーブルにアクセスします。このシステム・ユーザーに追加された Unica Platform データ・ソースが、必要なアクセス資格情報を提供します。Unica Deliver システム・テーブルはパーティションの Unica Campaign スキーマ内に存在するため、Unica Campaign スキーマにアクセスするために作成したシステム・ユーザーを使用して、パーティションの Unica Deliver システム・テーブルにアクセスすることができません。

4. パーティションの構成プロパティで、以下のプロパティを更新します。
 - Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > type
 - Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > schemaName


- Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcBatchSize
- Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcClassName
- Deliver > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcURI

構成プロパティの設定について詳しく学ぶには、各プロパティの Unica Platform オンライン・ヘルプを参照してください。これらの構成プロパティおよび Unica Deliver の構成についての追加情報は、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。

手動による Unica Deliver システム・テーブルの作成とデータ設定

Unica Deliver の場合、Unica Campaign スキーマに追加のシステム・テーブルを作成し、これらのテーブルに初期データを設定する必要があります。システム・テーブルを自動的に作成するオプションを選択すると、Unica Campaign インストーラーは、Unica Campaign スキーマで Unica Deliver システム・テーブルを自動的に作成し、データを追加します。ただし、そのオプションを選択しない場合は、Unica Deliver システム・テーブルを手動で作成してデータを追加する必要があります。

データベース・クライアントを使用して、Unica Campaign データベースに対して適切なスクリプトを実行します。

 **注:** Unica Deliver インストール・ディレクトリーは、Unica Campaign ディレクトリー内のサブフォルダーです。

Unica Deliver テーブルを作成するスクリプト

Campaign では、ローカル環境に Unica Deliver テーブルを作成する `ace_op_systab` スクリプトを提供しています。

Unica Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されている場合は、Unica Deliver インストール済み環境の `ddl/unicode` ディレクトリーにある適切なスクリプトを見つけます。

Unica Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されていない場合は、Unica Deliver インストール済み環境の `ddl` ディレクトリーにある非 Unicode 用のスクリプトを使用します。使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表をご利用ください。

表 10. Unica Deliver テーブルを作成するスクリプト

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM® DB2®	<code>ace_op_systab_db2.sql</code> システム・テーブルが置かれるユーザー・テーブル・スペースおよびシステム一時テーブル・スペースには、それぞれ 16K 以上のページ・サイズが必要です。
Microsoft™ SQL Server	<code>ace_op_systab_sqlsvr.sql</code>
MariaDB	<code>ace_op_systab_mariadb.sql</code>

表 10. Unica Deliver テーブルを作成するスクリプト


(続く)

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
Oracle	ace_op_systab_ora.sql

Unica Deliver テーブルにデータを追加するスクリプト

HCL では、ローカル環境で Unica Deliver テーブルにデータを追加する ace_op_populate_systab スクリプトを提供しています。

データ追加用スクリプトは、Unica Deliver インストール済み環境の ddl ディレクトリーに格納されています。HCL で用意しているデータ追加用スクリプトのバージョンは 1 つだけです。これらのスクリプトは、Unicode テーブルまたは非 Unicode テーブルのいずれにも使用できます。

 **注:** Unica Deliver インストール・ディレクトリーは、Unica Campaign ディレクトリー内のサブフォルダーです。

使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表をご利用ください。

表 11. Unica Deliver テーブルにデータを追加するスクリプト

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM® DB2®	ace_op_populate_systab_db2.sql
MariaDB	ace_op_populate_systab_mariadb.sql
Microsoft™ SQL Server	ace_op_populate_systab_sqlsvr.sql
Oracle	ace_op_populate_systab_ora.sql

HCL Unica にアクセスするシステム・ユーザーの構成

Unica Deliver コンポーネントは、ログイン資格情報の手動入力が必要とせずに、HCL Unica にアクセスできなければなりません。自動ログインを確立するには、Unica Platform に、必要なアクセス資格情報を提供できるシステム・ユーザーを定義します。

ユーザー管理およびトラブルシューティングを単純にするために、既存のシステム・ユーザーがホスト・サービスおよびローカル・システム・テーブルにアクセスするように変更することができます。複数のシステムに資格情報を提供する単一のシステム・ユーザーを構成できます。例えば、Unica Campaign システム・ユーザーの構成を変更する

ことで、HCL Unica および Unica Campaign スキーマの Unica Deliver システム・テーブルに自動的にアクセスできる単一のユーザーを作成します。

HCL Unica にアクセスするために必要な資格情報は、ご使用のホストされたメッセージング・アカウント用に HCL から提供されるユーザー名とパスワードです。

HCL Unica と通信するシステム・ユーザーの構成方法に関する具体的な情報については、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。

システム・ユーザーおよびデータ・ソースの作成方法に関する一般情報については、「Unica Platform 管理者ガイド」を参照してください。

HCL Unica へのパーティション・アクセスの構成

パーティション内の Unica Deliver コンポーネントは、HCL Unica との通信を試みる際に、有効なログイン資格情報を自動的に提供できるようになっていなければなりません。そのためには、Unica Platform ユーザーに HCL Unica ログイン資格情報を追加する必要があります。このユーザーは、Unica Deliver システム・ユーザーになります。

HCL Unica 資格情報を格納するプラットフォーム・データ・ソースを、Unica Deliver システム・ユーザーに追加できます。このユーザーは、パーティション内の Unica Campaign システム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーと同じであっても構いません。

パーティションのシステム・ユーザーを構成するためのステップは、Unica Deliver の初期インストール時に、最初のパーティションを作成するために従ったステップと同じです。ログイン資格情報をシステム・ユーザーに追加する方法について詳しくは、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。

HCL Unica にアクセスするために必要な資格情報は、最初の起動プロセスで HCL から提供されるユーザー名とパスワードです。

! **重要:** 追加するパーティションごとに、個別のユーザー名およびパスワードを HCL に要求する必要があります。

Unica Campaign で新規パーティションに対応するように Unica Deliver を使用可能にする

新規 Unica Deliver パーティションのユーザーが Unica Campaign にある Unica Deliver の機能にアクセスできるようにするには、Unica Campaign パーティションで Unica Deliver を使用可能にするため、対応する Unica Campaign パーティションの `deliverInstalled` 構成プロパティを更新する必要があります。

例えば、Unica Deliver メール配信タブは、Unica Campaign 構成で Unica Deliver を使用可能にするまでは、Unica Campaign インターフェースに表示されません。

パーティションで Unica Deliver を使用可能にするには、Unica Campaign パーティションに対応する `deliverInstalled` 構成プロパティを更新します。

Unica Platform 構成で、「**Campaign | partitions | partition[n] | server | internal**」にナビゲートして、`deliverInstalled` プロパティを `yes` に設定します。

Unica Deliver の受信者リスト・アップローダーの場所の指定

Unica Deliver を使用可能にするパーティションごとに、受信者リスト・アップローダー (RLU) の場所を指定します。RLU は、出力リスト・テーブルのデータおよび関連するメタデータを、HCL によってホストされるリモート・サービスにアップロードします。

初期インストール時に、Unica Campaign インストーラーは自動的に RLU の場所をデフォルト・パーティション (partition1) の構成に追加します。ただし、新しいパーティションを環境に追加するときには、新しいパーティションのすべてが正しい場所を参照するように手動で構成する必要があります。Unica Deliver のインストールごとに RLU は 1 つしか存在しないので、すべてのパーティションは、Unica Campaign Web アプリケーションをホストするマシンのローカル・ファイル・システムに置かれた同じプラグイン・ファイルにアクセスします。

1. Unica Campaign インストール済み環境の **partition1** の構成で、Campaign > partitions > partition1 > Deliver > deliverPluginJarFile にナビゲートします。

このプロパティの値は、RLU として機能するプラグイン・ファイル (deliverplugin.jar) の絶対パスです。

例:C:\Unica\Deliver\plugin\deliverplugin.jar

2. DeliverPluginJarFile プロパティの値をコピーします。
3. 新しいパーティションの DeliverPluginJarFile にナビゲートし、**partition1** からコピーしたパスを入力します。
すべてのパーティションは、RLU に対して同じ場所を使用する必要があります。

Unica Deliver を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動

Unica Deliver および Unica Campaign の構成を変更したら、Unica Campaign Web アプリケーション・サーバー、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT)、および Unica Campaign リスナーを再始動する必要があります。

1. Unica Campaign の Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

手順については、ご使用の Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

サーバーが始動したことを検査するには、Unica インストール済み環境にログインし、Unica Campaign にアクセスして、既存のメールを開けることを確認します。

2. レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を再始動します。

RCT を手動で再始動するには、Unica Deliver インストール済み環境の bin ディレクトリーにある rct スクリプトを次のように実行します。rct start。

RCT を手動で停止するには、Unica Deliver インストール済み環境の bin ディレクトリーにある rct スクリプトを次のように実行します。rct stop。

RCT がサービスとして実行されるように構成されている場合は、RCT サービスを再始動します。RCT をサービスとして初めて再始動するときは、後で RCT を手動で再始動する必要があります。


詳しくは、[Unica Deliver レスポンスおよびコンタクトのトラッカー \(RCT\) スクリプト\(84 ページ\)](#) を参照してください。

3. Unica Campaign リスナーを次のようにして再始動します。

- Windows™ の場合は、Unica Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーにある `cmpServer.bat` ファイルを実行します。
- UNIX™ の場合は、次のコマンドを root として実行します。 `./rc.unica_ac start`

Unica Deliver パーティションの構成および接続のテスト

Unica Deliver が提供している RLU スクリプトを実行して、パーティションの構成および HCL Unica への接続を検証します。さらに、パーティションからメーリング・インターフェースにアクセスできることも確認する必要があります。

 **重要:** Unica Campaign または Unica Deliver の構成を変更した場合は、作業を開始する前に、Unica Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動したことと、レスポンスおよびコンタクトのトラッカーを再始動したことを確認してください。

パーティションのテスト方法について詳しくは、「Unica Deliver 起動および管理者ガイド」を参照してください。

第 10 章. Unica Platform ユーティリティー

このセクションでは、Unica Platform の概要を示します。これには、すべてのユーティリティーに当てはまり、個別のユーティリティーの説明では扱われていない詳細が含まれます。

ユーティリティーの場所

Unica Platform ユーティリティーは、Unica Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーにあります。

ユーティリティーのリストと説明

Unica Platform は、以下のユーティリティーを提供します。

- [Clientdetails\(ページ\)](#) - クライアント・アプリケーション (Unica Journey など) が 1 つの Unica Platform インスタンスで認証を行うためのキーを生成します。
- [alertConfigTool\(70 ページ\)](#) - Unica 製品のアラートと構成を登録します。
- [configTool\(70 ページ\)](#) - 構成設定 (製品の登録を含む) のインポート、エクスポート、および削除を行います。
- [datafilteringScriptTool\(75 ページ\)](#) - データ・フィルターを作成します。
- [encryptPasswords\(76 ページ\)](#) - パスワードを暗号化および保管します。
- [encryptTomcatDBPasswords\(ページ\)](#) - Tomcat アプリケーション・サーバーが内部で使用するデータベースのパスワードを暗号化します。
- [partitionTool\(77 ページ\)](#) - パーティションのデータベース・エントリーを作成します。
- [populateDb\(80 ページ\)](#) - Unica Platform データベースにデータを設定します。
- [quartzjobtool\(ページ\)](#) - バージョン 11.1 とそれより古いバージョンで作成されたスケジューラー・ジョブを更新します。
- [restoreAccess\(80 ページ\)](#) - ユーザーに `platformAdminRole` 役割を復元します。
- [scheduler_console_client\(82 ページ\)](#) - トリガーを `listen` するように構成されている Unica のスケジューラー・ジョブをリストまたは開始します。
- `insightsdbutil` - インストーラーは、データベース接続トークンを所有するレポート設計ファイルを配置します。それらをシステム・データベース用に更新する必要があります。同じ更新を行うには、`insightsdbutil.sh/bat` ユーティリティーを実行する必要があります。詳しくは、「Unica Insights インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

Unica Platform ユーティリティーを実行するための前提条件

以下は、すべての Unica Platform ユーティリティーを実行するための前提条件です。

- すべてのユーティリティーは、それらが存在するディレクトリー (デフォルトでは、Unica Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリー) から実行します。
- UNIX™ では、ベスト・プラクティスは、Unica Platform が配置されている アプリケーション・サーバーを実行するユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウントでユーティリティーを実行することです。異なるユーザー・アカウントでユーティリティーを実行する場合、`platform.log` ファイルの権限を調整して、そのユ

ザー・アカウントがこのファイルに書き込めるようにします。権限を調整しないと、ユーティリティーはログ・ファイルに書き込むことができず、ツールは正しく機能しているのにエラー・メッセージが表示される可能性があります。

ユーティリティーの認証

例えば configTool などの Unica バックエンド・ユーティリティーのようなユーティリティーは、システム管理者が使用するように設計されており、起動するためにはホスト・サーバーへの物理アクセスを必要とします。そのため、これらのユーティリティーの認証は、UI 認証メカニズムから独立して設計されています。これらのユーティリティーへのアクセスは、Unica Platform 管理者特権のあるユーザーが行えます。これらのユーティリティーに対するアクセスは Unica Platform でローカルに定義され、その同じ定義に基づいて認証されることになっています。

接続の問題のトラブルシューティング

encryptPasswords を除くすべての Unica Platform ユーティリティーは、Unica Platform システム・テーブルと対話します。システム・テーブル・データベースに接続するために、これらのユーティリティーは以下の接続情報を使用します。この情報は、Unica Platform のインストール時に提供される情報を使ってインストーラーによって設定されます。この情報は、Unica Platform インストールの下の tools/bin ディレクトリーにある jdbc.properties ファイルに保管されます。

- JDBC ドライバー名
- JDBC 接続 URL (ホスト、ポート、およびデータベース名を含む)
- データ・ソース・ログイン
- データ・ソース・パスワード (暗号化)

さらに、これらのユーティリティーは、Unica Platform のインストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトまたはコマンド行で設定された、JAVA_HOME 環境変数に依存しています。この変数は Unica Platform インストーラーによって setenv スクリプトで自動的に設定されるはずですが、ユーティリティーの実行に問題がある場合は JAVA_HOME 変数が設定されていることを確認することをお勧めします。JDK は Sun バージョンでなければなりません (例えば WebLogic で入手できる JRockit JDK は不可です)。

特殊文字

オペレーティング・システムで予約文字として指定されている文字は、エスケープする必要があります。予約文字のリストおよびそれをエスケープする方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

Unica Platform ユーティリティーの標準オプション

すべての Unica Platform ユーティリティーで、以下のオプションを使用できます。

-l logLevel

コンソールに表示されるログ情報のレベルを設定します。オプションは、high、medium、および low です。デフォルトは low です。

-L

コンソール・メッセージのロケールを設定します。デフォルト・ロケールは en_US です。使用可能なオプション値は、Unica Platform が翻訳されている言語に依存します。ISO 639-1 および ISO 3166 に応じて、ICU ロケール ID を使ってロケールを指定します。

-h

使用方法に関する簡潔なメッセージをコンソールに表示します。

-m

このユーティリティーのマニュアル・ページをコンソールに表示します。

-v

実行の詳細をコンソールに表示します。

ユーティリティー

このセクションでは、Unica Platform ユーティリティーに関する機能詳細、構文、例について説明します。

alertConfigTool

通知タイプは、さまざまな Unica 製品に固有のもので、インストール時またはアップグレード時にインストーラーが自動的に通知タイプを登録しなかった場合は、alertConfigTool ユーティリティーを使用して登録してください。

構文

```
alertConfigTool -i -f importFile
```

コマンド

```
-i -f importFile
```

指定した XML ファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

例

- Unica Platform インストール済み環境の tools\bin ディレクトリーにある Platform_alerts_configuration.xml という名前のファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

```
alertConfigTool -i -f Platform_alerts_configuration.xml
```

configTool

「構成」ページのプロパティと値は、Unica Platform システム・テーブルに保管されます。configTool ユーティリティーを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Unica Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートをインポートする。その後、**構成**ページを使って、その変更および複製を行うことができます。
- 製品インストーラーがプロパティをデータベースに自動的に追加できない場合に Unica 製品を登録する (その構成プロパティをインポートする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、Unica の別のインストールにインポートする。
- **「カテゴリの削除」** リンクを持たないカテゴリを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

! **重要:** このユーティリティーは、Unica Platform システム・テーブル・データベース (構成プロパティとその値が含まれている) の `usm_configuration` テーブルと `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最良の結果を得るために、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そうすることで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元することができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「**構成**」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。|文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、`-u` コマンドを使用します。
- 「**構成**」ページに「**カテゴリの削除**」リンクがないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

-vp コマンドで -d を使用すると、configTool は指定されたパスに含まれるどの子ノードも削除します (指定された XML ファイルにそれらのノードが含まれない場合)。

-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリのインポート先の親要素へのパスを指定します。configTool ユーティリティは、パス内で指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

カテゴリは最上位の下のどのレベルにでも追加することができますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。これらの内部名は、「**構成**」ページに移動して、必要なカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることによって得ることができます。|文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場合、またはパスを指定しない場合、configTool は tools/bin ディレクトリーから相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前前の XML ファイルに構成プロパティとその設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートすることも、構成プロパティ階層内のパスを指定することによって特定のカテゴリにエクスポートを制限することもできます。

要素パスにはカテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これは、「**構成**」ページに移動し、必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見るとわかります。|文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX™ の場合は /、Windows™ の場合は / または \) が含まれていない場合、configTool はファイルを Unica Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を付けられない場合、configTool によってそれが追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックス・パックを適用した後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすることにより、フィックス・パックが適用されたときに設定された値をオーバーライドできます。-vp コマンドは、既に設定されている構成値がインポートによってオーバーライドされないようにします。

重要: configTool ユーティリティを `-vp` オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Unica Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

`-vp` コマンドで `-d` を使用すると、configTool は指定されたパスに含まれるどの子ノードも削除します (指定された XML ファイルにそれらのノードが含まれない場合)。

`-r productName -f registrationFile`

アプリケーションを登録します。tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、`-o` オプションを使用して上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされている名前のいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- `-r` コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして `<application>` を指定する必要があります。
- Unica Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイルについては、`-i` コマンドを使用します。最初のタグとして `<application>` タグがあるファイルだけを `-r` コマンドとともに使用できます。
- Unica Platform の登録ファイルの名前は `Manager_config.xml` で、最初のタグは `<Suite>` です。新規インストールでこのファイルを登録するには、「Unica Platform インストール・ガイド」に説明されているように `populateDb` ユーティリティを使用するか、または Unica Platform インストーラーを再実行します。
- 最初のインストールの後、Unica Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を `-r` コマンドおよび `-o` を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。Unica 8.5.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。ただし、configTool によって認識される名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 12. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	configTool で使用する名前
Unica Platform	管理者
Unica Campaign	キャンペーン
Unica Collaborate	Collaborate
Unica Deliver	Deliver
Unica Journey	Journey
Unica Insights	UnicaInsights
Unica コンテンツ統合	assetPicker
Unica オファー	Offer
Unica Interact	interact

表 12. configTool 登録および登録解除で使用する製品名 (続く)

製品名	configTool で使用する名前
Unica Optimize	Optimize
Unica Plan	Plan
Opportunity Detect	Detect
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-uproductName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、そのみで十分です。このプロセスで、製品のすべてのプロパティと構成設定が削除されます。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

-d とともに使用すると、「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリー (ノード) を削除することができます。

例

- Unica Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供されている Unica Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つをデフォルトの Unica Campaign パーティションである partition1 にインポートします。この例では、Oracle データ・ソース・テンプレート OracleTemplate.xml が Unica Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにあることを前提としています。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を D:\backups ディレクトリーの myConfig.xml という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:\backups\myConfig.xml
```

- 既存の Unica Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、Unica Platform インストールのデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f partitionTemplate.xml
```

- Unica Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

- 次のコマンドを実行して、encodeCSV 機能を有効にします。

```
configTool -vp -p "Affinium|Plan|umoConfiguration" -f Plan_Home\conf\Plan_encodeProperty_11.1.xml
```

- 以下を使用して AffiniumWebApps\Campaign\interact\conf\interact_setup_navigation.xml に Unica Interact 設定を構成メニューとして登録します:

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f "interact_setup_navigation.xml"
```

datafilteringScriptTool

datafilteringScriptTool ユーティリティは、XML ファイルを読み取って、Unica Platform システム・テーブル・データベースのデータ・フィルター・テーブルにデータを設定します。

XML をどのように書くかに応じて、このユーティリティには使用方法が 2 とおあります。

- XML 要素の 1 つのセットを使用して、フィールド値の一意的組み合わせに基づいてデータ・フィルター (一意の組み合わせごとに 1 つのデータ・フィルター) を自動生成します。
- XML 要素の若干異なるセットを使用して、ユーティリティによって作成される各データ・フィルターを指定することができます。

XML の作成について詳しくは、「Unica Platform 管理者ガイド」を参照してください。

datafilteringScriptTool を使用する場合

datafilteringScriptTool は、新規データ・フィルターを作成するときに使用する必要があります。

前提条件

Unica Platform を配置し、実行しておく必要があります。

SSL との datafilteringScriptTool の使用

片方向 SSL を使用して Unica Platform を配置している場合、datafilteringScriptTool スクリプトを変更し、ハンドシェイクを実行する SSL オプションを追加する必要があります。スクリプトを変更するには、以下の情報が必要です。

- トラストストア・ファイル名とパス
- トラストストア・パスワード

テキスト・エディターで、datafilteringScriptTool スクリプト (.bat または .sh) を開き、次のような行を見つけます (例は Windows™ バージョンの場合)。

```
:callexec
```



```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%"
```

```
com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

この行を次のように編集します (新規テキストは**太字**で示します)。myTrustStore.jks および myPassword は、ご自分のトラストストア・パスとファイル名およびトラストストア・パスワードに置き換えてください。

```
:callexec
```

```
SET SSL_OPTIONS=-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="C:\security\myTrustStore.jks"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=myPassword
```

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%" %SSL_OPTIONS%
```

```
com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

構文

```
datafilteringScriptTool -r pathfile
```

コマンド

-r *path_file*

指定された XML ファイルからデータ・フィルターの仕様をインポートします。インストールの下の tools/bin ディレクトリにファイルがない場合、パスを指定し、*path_file* パラメーターを二重引用符で囲みます。

例

- C:\unica\xml ディレクトリにあるファイル collaborateDataFilters.xml を使用して、データ・フィルター・システム・テーブルにデータを設定します。

```
datafilteringScriptTool -r "C:\unica\xml\collaborateDataFilters.xml"
```

encryptPasswords

encryptPasswords ユーティリティーは、Unica Platform が内部的に使用する 2 つのパスワードのいずれかを暗号化して保管するために使用します。

ユーティリティーは、以下の 2 つのパスワードを暗号化できます。

- Unica Platform がシステム・テーブルにアクセスするために使用するパスワード。このユーティリティーは、既存の暗号化パスワード (Unica Platform インストールの下の tools\bin ディレクトリにある jdbc.properties ファイルに保管されている) を新規パスワードで置き換えます。
- Unica Platform または Web アプリケーション・サーバーによって提供されるデフォルトの証明書以外の証明書で SSL を一緒に使用するように構成されたときに、Unica Platform によって使用される鍵ストア・パスワード。証明書は、自己署名証明書か認証局からの証明書のいずれかになります。

encryptPasswords を使用する場合

encryptPasswords は、以下の理由で使用します。

- Unica Platform システム・テーブル・データベースにアクセスするために使用されるアカウントのパスワードを変更する場合。
- 自己署名証明書を作成したとき、または認証局から証明書を取得した場合。

前提条件

- encryptPasswords を実行して新規データベース・パスワードを暗号化して保管する前に、Unica Platform インストールの下の tools/bin ディレクトリーにある jdbc.properties ファイルのバックアップ・コピーを作成しておきます。
- encryptPasswords を実行して鍵ストア・パスワードを暗号化して保管する前に、デジタル証明書を作成または取得し、鍵ストア・パスワードを覚えておく必要があります。

構文

```
encryptPasswords -d databasePassword
```

```
encryptPasswords -k keystorePassword
```

コマンド

-d databasePassword

データベース・パスワードを暗号化します。

-k keystorePassword

鍵ストア・パスワードを暗号化し、ファイル pfile に保管します。

例

- Unica Platform をインストールした時に、システム・テーブル・データベース・アカウントのログインが myLogin に設定されています。インストール後のある時に、このアカウントのパスワードを newPassword に変更します。encryptPasswords を以下のように実行し、データベース・パスワードを暗号化して保管します。

```
encryptPasswords -d newPassword
```

- SSL を使用するように Unica アプリケーションを構成し、デジタル証明書を作成または取得しました。encryptPasswords を以下のように実行し、鍵ストア・パスワードを暗号化および保管します。

```
encryptPasswords -k myPassword
```

partitionTool

パーティションは Unica Campaign ポリシーおよび役割と関連付けられます。これらのポリシーおよび役割、およびそのパーティションとの関連付けは Unica Platform システム・テーブルに保管されます。partitionTool ユーティリティは、パーティションの基本ポリシーおよび役割情報で Unica Platform システム・テーブルをシードします。

partitionTool を使用する場合

作成するパーティションごとに、partitionTool を使用して、基本ポリシーおよび役割情報で Unica Platform システム・テーブルをシードする必要があります。

Unica Campaign での複数パーティションの設定について詳しくは、ご使用のバージョンの Unica Campaign に該当するインストール・ガイドを参照してください。

特殊文字とスペース

パーティションの説明、またはユーザー、グループ、あるいはパーティションの名前にスペースが含まれる場合、それらを二重引用符で囲む必要があります。

構文

```
partitionTool -c -s sourcePartition -n newPartitionName [-u admin_user_name] [-d partitionDescription] [-g groupName] [-a application]
```

 **注:** [-a application] は、バージョン 12.1.0.4 以降に適用されます。

コマンド

partitionTool コーティリティーでは、以下のコマンドを使用できます。

-c

-s オプションを使用して指定する既存のパーティションのポリシーおよび役割を複製 (クローンを作成) し、-n オプションを使用して指定する名前を使用します。どちらのオプションにも c が必要です。このコマンドは次のことを行います。

- Unica Campaign で、管理役割ポリシーとグローバル・ポリシーの両方に管理者の役割を持つ新規 Unica ユーザーを作成します。指定するパーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。
- 新規 Unica Platform グループを作成し、新規管理ユーザーをそのグループのメンバーにします。
- 新規パーティション・オブジェクトを作成します。
- ソース・パーティションに関連付けられているすべてのポリシーを複製し、それらを新規パーティションに関連付けます。
- 複製されるポリシーごとに、そのポリシーに関連付けられているすべての役割を複製します。
- 複製される役割ごとに、ソース役割でマップされた方法と同じ方法ですべての機能をマップします。
- 新規 Unica Platform グループを、役割の複製時に作成される最後のシステム定義の管理役割に割り当てます。デフォルト・パーティション partition1 を複製する場合、この役割はデフォルトの管理役割 (管理) になります。

オプション

-d partitionDescription

オプション。-c とともにのみ使用されます。-list コマンドからの出力に表示される説明を指定します。256 文字以下でなければなりません。説明にスペースが含まれる場合は二重引用符で囲みます。

-a application

オプションで、`-c`、`-n`、`-g`、および `-u` でのみ使用します。指定したアプリケーションの複製元パーティションからのデータのみを複製します。アプリケーションは Unica Suite アプリケーションである必要があります。これは、バージョン 12.1.0.4 以降に適用されます。

`-g groupName`

オプション。 `-c` とともにのみ使用されます。ユーティリティーによって作成される Unica Platform 管理グループの名前を指定します。名前は、Unica Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。

定義されない場合、名前はデフォルトの `partition_nameAdminGroup` になります。

`-n partitionName`

`-list` ではオプションで、`-c` では必須です。32 文字以下でなければなりません。

`-list` とともに使用する場合、情報をリストするパーティションを指定します。

`-c` とともに使用する場合、新規パーティションの名前を指定します。指定するパーティション名は、管理ユーザーのパスワードとして使用されます。パーティション名は、「構成」ページでパーティション・テンプレートを使用し、パーティションを構成したときに付けた名前と一致する必要があります。

`-s sourcePartition`

必須。 `-c` とのみ使用されます。複製されるソース・パーティションの名前。

`-uadminUserName`

オプション。 `-c` とともにのみ使用されます。複製されるパーティションの管理ユーザーのユーザー名を指定します。名前は、Unica Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。


定義されない場合、名前はデフォルトの `partitionNameAdminUser` になります。

パーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。

例

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
 - `partition1` から複製
 - パーティション名は `myPartition`
 - デフォルト名 (`myPartitionAdminUser`) およびパスワード (`myPartition`) を使用
 - デフォルト・グループ名 (`myPartitionAdminGroup`) を使用
 - 説明を「`ClonedFromPartition1`」にする。
 - `partitionTool -c -s partition1 -n myPartition -d "ClonedFromPartition1"`
- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
 - `partition1` から複製
 - パーティション名は `partition2`
 - ユーザー名 `customerA` を指定し、自動的に割り当てられるパスワード `partition2` を使用
 - グループ名 `customerAGroup` を指定
 - 説明を「`PartitionForCustomerAGroup`」にする。
 - `partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u customerA -g customerAGroup -d "PartitionForCustomerAGroup"`

- バージョン 12.1.0.4 以降から、以下の特性でパーティションを更新します。
 - partition1 から複製
 - パーティション名は partition2
 - partition2 の管理ユーザー名と管理ユーザー・グループを指定します。
 - `partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u partition2AdminUser -a Journey`

 **注:** ユーティリティーでパーティションを作成した際にグループ名を明示的に指定しなかった場合には、`-a` オプションを使用して必ずグループ名を指定してください。

```
partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u partition2AdminUser -g [partition2 group name] -a Journey
```

populateDb

populateDb ユーティリティーは、デフォルト (シード) データを Unica Platform システム・テーブルに挿入します。

Unica インストーラーは、Unica Platform システム・テーブルに Unica Platform および Unica Campaign のデフォルト・データを追加できます。しかし、会社の方針でインストーラーによるデータベースの変更が許可されていない場合、またはインストーラーが Unica Platform システム・テーブルに接続できない場合、このユーティリティーを使用して Unica Platform システム・テーブルにデフォルト・データを挿入する必要があります。

Unica Campaign の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティ役割および権限が含まれます。Unica Platform の場合、このデータには、デフォルトのユーザーとグループ、およびデフォルト・パーティションのセキュリティの役割および権限が含まれます。

構文

```
populateDb -n productName
```

コマンド

```
-n productName
```

デフォルト・データを Unica Platform システム・テーブルに挿入します。有効な製品名は Manager (Unica Platform の場合) および Campaign (Unica Campaign の場合) です。

例

- Unica Platform デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Manager
```
- Unica Campaign デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Campaign
```

restoreAccess

PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが誤ってロックアウトされた場合、または Unica Platform にログインするすべての機能が失われた場合には、restoreAccess ユーティリティを使用して、Unica Platform へのアクセスを復元できます。

restoreAccess を使用する場合

restoreAccess は、このセクションで説明されている 2 つの状況下で使用できます。

PlatformAdminRole ユーザーが無効になっている

Unica Platform で PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが、システム内で無効にされる可能性があります。以下に、platform_admin ユーザー・アカウントがどのように無効になるかを示す例を示します。PlatformAdminRole 権限を持つユーザーが 1 人 (platform_admin ユーザー) だけであるとします。「構成」ページの「全般 | パスワード設定」カテゴリの「許可されるログイン再試行の最大回数」プロパティが 3 に設定されているとします。そこで、誰かが platform_admin としてログインしようとして誤ったパスワードを 3 回続けて入力したとします。このログイン試行の失敗が原因で、platform_admin アカウントはシステム内で無効になります。

この場合、restoreAccess を使用すると、Web インターフェースにアクセスせずに、PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを Unica Platform システム・テーブルに追加することができます。

このように restoreAccess を実行すると、このユーティリティは、指定したログイン名とパスワードおよび PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。

指定したユーザー・ログイン名が、Unica Platform 内に内部ユーザーとして存在する場合、そのユーザーのパスワードは変更されます。

ログイン名 PlatformAdmin および PlatformAdminRole 権限を持つユーザーだけが、例外なくすべてのダッシュボードを管理することができます。そのため、platform_admin ユーザーが無効になっていて、restoreAccess によってユーザーを作成する場合、ログインとして platform_admin を持つユーザーを作成する必要があります。

不適切な NTLMv2 認証構成

構成が不適切な NTLMv2 認証を実装してログインできなくなった場合は、restoreAccess を使用して、ログインできるように復元します。

このように restoreAccess を実行すると、このユーティリティは、「Platform | セキュリティ | ログイン方法」プロパティの値を Unica Platform に変更します。この変更により、ロックアウトされる前に存在していたユーザー・アカウントを使ってログインできるようになります。オプションで、新規ログイン名およびパスワードを指定することもできます。このように restoreAccess ユーティリティを使用する場合は、Unica Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

パスワードに関する考慮事項

restoreAccess を使用する際は、パスワードに関する以下の点に注意してください。

- restoreAccess ユーティリティでは空のパスワードがサポートされておらず、パスワード規則は適用されません。
- 使用中のユーザー名を指定すると、そのユーザーのパスワードはユーティリティによってリセットされます。

構文

```
restoreAccess -u loginName -p password
```

```
restoreAccess -r
```

コマンド

-r

-u *loginName* オプションを指定せずに使用した場合は、「プラットフォーム|セキュリティ|ログイン方法の詳細」プロパティの値を Unica Platform にリセットします。有効にするには Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-u *loginName* オプションとともに使用すると、PlatformAdminRole ユーザーが作成されます。

オプション

-u *loginName*

PlatformAdminRole 権限を持ち、指定されたログイン名のユーザーを作成します。-p オプションとともに使用する必要があります。

-p *password*

作成するユーザーのパスワードを指定します。-u で必要です。

例

- PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

```
restoreAccess -u tempUser -p tempPassword
```

- ログイン方法の値を「Platform」に変更し、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

```
restoreAccess -r -u tempUser -p tempPassword
```

scheduler_console_client

Unica スケジューラーで構成されるジョブがトリガーを listen するようにセットアップされている場合、このユーティリティによってジョブをリストし、開始することができます。

SSL が有効な場合の実行内容

SSL を使用するように Unica Platform Web アプリケーションが構成されている場合、scheduler_console_client ユーティリティが使用する JVM は、Unica Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書と同じ SSL 証明書を使用する必要があります。

SSL 証明書をインポートするには以下の手順を実行します。

- scheduler_console_client によって使用される JRE の場所を判別します。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されている場合、それが指す JRE が、scheduler_console_client ユーティリティーによって使用される JRE です。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されていない場合、scheduler_console_client ユーティリティーは、Unica Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトかコマンド・ラインのいずれかで設定される JRE を使用します。
- Unica Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書を scheduler_console_client が使用する JRE にインポートします。

Sun JDK には、証明書のインポートに使用できる keytool というプログラムが含まれています。このプログラムについて詳しくは、Java™ の資料を参照してください。あるいは、プログラムを実行するときに -help を入力してヘルプにアクセスしてください。

- テキスト・エディターで tools/bin/schedulerconsoleclient ファイルを開いて、以下のプロパティーを追加します。これらは、Unica Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーに応じて異なります。
 - WebSphere® の場合、以下のプロパティーをファイルに追加します。

```
-Djavax.net.ssl.keyStoreType=JKS
-Djavax.net.ssl.keyStore="Path to your key store JKS file"
-Djavax.net.ssl.keyStorePassword="Your key store password"
-Djavax.net.ssl.trustStore="Path to your trust store JKS file"
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="Your trust store password"
-DUseIBMSSLSocketFactory=false
◦ WebLogic の場合、以下のプロパティーをファイルに追加します。
-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"
-Djavax.net.ssl.trustStore="Path to your trust store JKS file"
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="Your trust store password"
```

証明書が一致しない場合、Unica Platform ログ・ファイルに以下のようなエラーが入ります。

原因: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: unable to find valid certification path to requested target

前提条件

Unica Platform がインストール、配置、および実行されている必要があります。

構文

```
scheduler_console_client -v -t trigger_name user_name
```

```
scheduler_console_client -s -t trigger_name user_name
```

コマンド

-v

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブをリストします。

-t オプションとともに使用する必要があります。

-s

指定されたトリガーを送信します。

-t オプションとともに使用する必要があります。

オプション

-t *trigger_name*

スケジューラーで構成されるトリガーの名前。

例

- トリガー `trigger1` を `listen` するように構成されているジョブをリストします。

```
scheduler_console_client -v -t trigger1 myLogin
```

- トリガー `trigger1` を `listen` するように構成されているジョブを実行します。

```
scheduler_console_client -s -t trigger1 myLogin
```

Unica Deliver レスponsおよびコンタクトのトラッカー (RCT) スクリプト

レスponsおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を実行し、その状況を確認するには、このスクリプトを使用します。

このスクリプトは、Unica Deliver インストール済み環境の `bin` ディレクトリーにあります。Unica Deliver ディレクトリーは、Unica Campaign ディレクトリー内にあるサブディレクトリーです。

UNIX™ または Linux™ 環境では、このスクリプトを `rct.sh` として実行します。

Windows™ では、このスクリプトをコマンド・ラインから `rct.bat` として実行します。

構文

```
rct [ start | stop | check ]
```

コマンド

start

RCT を始動します。

停止

RCT を停止します。

オプション

check

RCT と HCL Unica との接続状況を確認します。

例

- Windows™ で RCT を始動するには、以下を実行します。

```
rct.bat start
```

- Windows™ で RCT を停止するには、以下を実行します。

```
rct.bat stop
```

- Linux™ 環境では、RCT が HCL Unica に接続されているかどうかを判別するには、以下を実行します。

```
rct.sh check
```

システムの状況に応じて、このコマンドの出力は以下のような内容になります。

```
C:\<UNICA_HOME>\Campaign\Deliver\bin>rct check
Testing config and connectivity for partition partition1
Succeeded | Partition: partition1 - Hosted Services Account ID:
asm_admin
```

MKService_rct スクリプト

MKService_rct スクリプトは、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) をサービスとして追加または削除します。RCT をサービスとして追加すると、RCT をインストールしたコンピューターが再始動するたびに、RCT が再始動します。サービスとしての RCT を削除すると、RCT は自動的に再始動されなくなります。

このスクリプトは、Unica Deliver インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。

UNIX™ または Linux™ 環境では、root 権限またはデーモン・プロセスを作成する権限を持つユーザーとして MKService_rct.sh を実行します。

Windows™ では、このスクリプトをコマンド・ラインから MKService_rct.bat として実行します。

構文

```
MKService_rct -install
```

```
MKService_rct -remove
```

コマンド

-install

RCT をサービスとして追加します。

-remove

RCT サービスを削除します。

例

- RCT を Windows™ サービスとして追加します。

```
MKService_rct.bat -install
```

- UNIX™ または Linux™ で RCT サービスを削除するには、以下を実行します。

```
MKService_rct.sh -remove
```

第 11 章. Unica Campaign および Unica Optimize のアンインストール


Unica Campaign および Unica Optimize アンインストーラーを実行して、Unica Campaign および Unica Optimize をアンインストールします。アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

Unica 製品をインストールする際、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。`Product` は、製品の名前です。Windows™ の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストへのエントリーの追加も行われます。

アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイルを手動で削除すると、後で製品を同じ場所に再インストールする場合にインストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールしても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルはいずれも削除されません。

Campaign をアンインストールする際には、Unica 製品のアンインストールに関する一般的な手順のほかに、以下のガイドラインに従ってください。

- 同じ Unica Platform インストール済み環境を使用する複数の Unica Campaign ランタイム・インストール済み環境がある場合は、アンインストーラーを実行する前に、Unica Campaign ランタイム・ワークステーションのネットワーク接続を削除する必要があります。これを行わないと、その他すべての Unica Campaign ランタイム・インストール済み環境の構成データが Unica Platform からアンインストールされません。
- Unica Platform での登録解除の失敗に関するすべての警告は、無視しても問題ありません。
- 予防措置として、Unica Campaign をアンインストールする前に、構成のコピーをエクスポートすることができます。
- Unica Campaign 設計時環境をアンインストールする場合は、アンインストーラーを実行した後、手動で Unica Campaign を登録解除しなければならないことがあります。configtool ユーティリティーを使用して、`full_path_to_Interact_DT_installation_directory\interactDT\conf\interact_navigation.xml` および `full_path_to_Interact_RT_installation_directory\conf\interact_navigation.xml` を登録解除します。

 **注:** UNIX™ の場合、Unica Campaign をインストールしたものと同一ユーザー・アカウントがアンインストーラーを実行する必要があります。

1. Unica Campaign Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere® または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
2. Unica Campaign リスナーを停止します。
3. システム・テーブル・データベースから Unica Optimize テーブルを削除するには、Unica Campaign インストール済み環境の `ddl` ディレクトリーで、`aco_systab_drop.sql` スクリプトを実行します。製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。

4. WebSphere® または WebLogic をシャットダウンします。
5. Campaign に関連するプロセスを停止します。
6. 製品インストール・ディレクトリーに ddl ディレクトリーが既存である場合、その ddl ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
7. IBM SPSS® Modeler Collaboration and Deployment Service (C&DS) がアンインストールされていることを確認します。

インストール・マネージャーを開いて、C&DS がアンインストールされていることを確認します。C&DS がアンインストールされていない場合は、インストール・マネージャーを使用して C&DS をアンインストールしてください。

8. 以下のいずれかの手順を実行して Unica Campaign をアンインストールします。
 - Uninstall_*Product* ディレクトリー内に存在する Unica Campaign アンインストーラーをクリックします。アンインストーラーは、Unica Campaign および Attribution Modeler をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Unica Campaign および Attribution Modeler をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_*Product* -i console

- UNIX™ 環境でアンインストール作業を行う場合、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、以下のコマンドを実行して Unica Campaign をアンインストールします。


```
./Uninstall\ Interaction\ History。
```

 **注:** UNIX™ では、\ の後にスペースが必要です。

- サイレント・モードを使用して Unica Campaign および Attribution Modeler をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_*Product* -i silent

サイレント・モードを使用して Unica Campaign をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

 **注:** Unica Campaign のアンインストールに関するオプションを指定しなかった場合、アンインストーラーは、Unica Campaign のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 12 章. Unica Campaign Web アプリケーション・クラスタリング

クラスター内で Unica Campaign Web アプリケーション (J2EE アプリケーション) を構成するには、Unica Campaign のインストール中に追加のタスクを完了します。

Unica Campaign のクラスター化された Web アプリケーション環境を、Interact、Plan および Deliver と統合できます。

概要

Unica Campaign Web アプリケーション・サーバー・コンポーネントは、Web アプリケーションがクラスター化環境にデプロイされている場合に、ロード・バランシングをサポートします。

Unica Campaign では、ユーザー・インターフェースでの応答時間を向上させるために、オファーなどの特定のオブジェクトは Web アプリケーション・サーバーでキャッシュされます。ロード・バラン環境では、campaign_ehcache.xml を構成した場合に、ある Web アプリケーション・サーバーで作成されたオファーは、別のサーバーを介してセッションに接続するユーザーに対して使用可能になります。

キャッシュされるオブジェクトとしては、オファー、オファー・テンプレート、オファー属性、キャンペーン、セッション、フォルダー、属性、イニシアチブ、セグメントがあります。

クラスター化構成を使用して、Web アプリケーション・サーバーの障害時に、アプリケーション可用性の中断を最小限に抑えることができます。Unica Campaign システム・テーブルは外部データベースに格納されるので、スタンバイ・サーバーにデータを複製する必要はありません。プライマリー Web アプリケーション・サーバーで障害が起こった場合は、スタンバイ・サーバーで Unica Campaign Web アプリケーションが開始されなければなりません。開始された Unica Campaign Web アプリケーションは、Unica Campaign システム・テーブル・データベースからすべての現行データを取得します。

メイン・ステップ

Unica Campaign をクラスター化された Web アプリケーション環境にインストールするには、第 2 章から第 8 章までの説明に従いながら、この章で示す情報をそれらの手順に補足します。

Unica Campaign をクラスターにインストールする場合、インストール済み環境を構成する多くの方法があります。以下のステップで、基本的なプロセスを説明します。

1. 1 つのシステムでインストーラーを実行します。通常は、管理サーバー (またはご使用のアプリケーション・サーバー・タイプにおいて同等のもの) です。
2. すべての Unica Campaign インストールのアップロード・ファイルを保管するためのファイル・ディレクトリーを作成し、共有します。
3. EAR または WAR ファイルを作成し、クラスターおよび Web サーバーに展開します。
4. 各システムが Unica Platform システム・テーブルおよび Unica Campaign システム・テーブルを共有するように構成します。
5. 各システムが共有ファイル・ディレクトリーを使用するように構成します。
6. クラスター内のどのサーバーが通知を送信するかを決定します。次に、その他のすべてのサーバーで通知プロセスを抑制します。

7. Unica Campaign 「インストール・ガイド」で説明しているように、テンプレートおよびオファー・フォルダーの分散キャッシング用に `campaign_ehcache.xml` を構成します。キャッシュの更新頻度を指定するには、`offerTemplateDataTTLSeconds` などの Unica Campaign キャッシュ構成設定を調整します。ただしこの調整を行う場合、小さい値を設定するとキャッシュの更新が増えるため、パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。構成設定についての説明が、「Unica Campaign 管理者ガイド」に記載されています。

WebSphere クラスター化ガイドライン

WebSphere® のクラスターに Unica Campaign をインストールする場合は、Unica Campaign を WebSphere® にインストールする手順に加え、以下の追加の手順も実行してください。

データ・ソースの準備

このガイドで説明されている他の指示に加え、データ・ソース用の以下の作業を実行します。

- Unica Campaign データベースは、クラスター内のすべてのサーバーからアクセス可能なサーバー上にある必要がありますが、クラスター内のサーバー上にある必要はありません。
- JDBC プロバイダーを構成するときに、スコープとしてクラスターを指定します。

製品のインストール

インストーラーを実行するときには、必ず、クラスターの管理サーバーとして指定されているサーバーに Unica Platform および Unica Campaign を 1 回だけインストールしてください。管理サーバーは、Unica Campaign クラスター内のすべてのサーバーからアクセスできます。

それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインストールする必要はありません。その代わりに、管理サーバーでインストールを実行し、EAR または WAR ファイルを作成して、その EAR ファイルまたは WAR ファイルをそれぞれのクラスター・メンバーに配置します。

 **注:** Campaign にバンドルされている IBM® WebSphere® Application Server はクラスタリングに対応していません。クラスター環境では、IBM® WebSphere® Application Server Network Deployment を使用してください。

配置前手順

Unica Campaign を配置する前に、以下のタスクを実行します。

- Unica Campaign のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例えば、Unica Campaign を `C:\CampaignCluster\UNICA\Campaign` にインストールした場合、`CampaignCluster` ディレクトリー全体を共有します。

配置ステップ

配置の章 ([Unica Campaign Web アプリケーションの配置\(31 ページ\)](#)) に記載されている指示に加え、以下の作業を実行します。

1. サーバーにモジュールをマップします。WebSphere® の「インストール・オプションの選択」ウィザードでオプションを設定するときに、モジュールをサーバーにマップする際のクラスターおよび Web サーバーを選択します。
2. 汎用 JVM プロパティに関する追加の手順クラスター内の各サーバーで、汎用 JVM プロパティを構成します。

<CAMPAIGN_HOME> やその他のプロパティで指定するパスは、共有されているインストール・ディレクトリーを指している必要があります。

クラスターに対して、以下の追加パラメーターを設定します。

- 以下のパラメーターを設定して、Deliver ETL がすべてのクラスター化ノードでトリガーされないようにします。

-Dcampaign.deliveretl.disabled=true

他のすべてのノードの ETL Unica Deliver データをトリガーする 1 つのノードに対して、パラメーターを「false」に設定します。

- 以下のパラメーターを設定して、Unica Interact ETL がすべてのクラスター化ノードでトリガーされないようにします。


-Dcampaign.interactetl.disabled=true

他のすべてのノードの ETL Interact データをトリガーする 1 つのノードに対して、パラメーターを「false」に設定します。

配置後の手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行します。

- Unica Campaign がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユーザーはそのセッションの間ずっと 1 つのノード上にとどまらなければなりません。このセッション管理およびロード・バランシングのオプションは、セッション・アフィニティーと呼ばれます。アプリケーション・サーバーの資料に、インストール済み環境でセッション・アフィニティーを使用するように構成する方法が記載されています。

 **注:** この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Unica Campaign 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替えない必要があります。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Unica Campaign にログインします。「設定」 > 「構成」を選択し、以下の URL パラメーターを構成して、Unica Campaign サーバーへのすべての参照でプロキシ・ホストおよびポートが使用されるようにします。

Campaign | navigation | serverURL

ehcache の構成

ehcache は、キャッシュ、Java™ EE、および単純なコンテナ用のオープン・ソース Java™ 分散キャッシュです。クラスター内のすべてのノードで同じ campaign_ehcache.xml ファイルを使用することも、ノードごとに異なる campaign_ehcache.xml ファイルを設定することもできます。クラスターでのインストールの場合、テンプレートや提供フォルダーに変更を加えたときにコンピューターを再始動する必要がないように、campaign_ehcache.xml ファイルを編集できます。

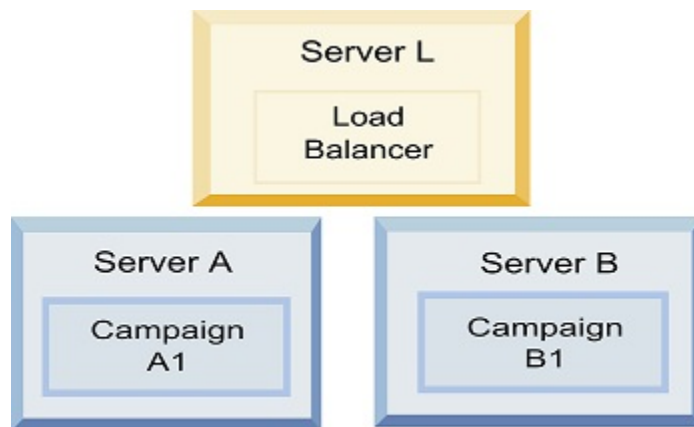
⚠ 重要:

- インストール環境を前のバージョンからアップグレードすると、campaign_ehcache.xml ファイルが上書きされます。そのファイルで以下のセクションを追加して編集してください。
- ユーザー・セッションのキャッシュ (userSessionCache) も構成する必要があります。

以下のいずれかの手順を使用して、ehcache ファイルを構成します。

リモート・メソッド呼び出し (RMI) による ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Unica Campaign システムでは RMI を使用します。



テキスト・エディターで、<HCL_Unica_HOME>\<CAMPAIGN_HOME>\conf ディレクトリにある campaign_ehcache.xml ファイルに移動して、開きます。その後、以下の編集作業を行います。

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

ご使用の環境に反映させるには、machineA および machineB の設定をカスタマイズする必要があります。完全修飾ホスト名を使用して、クラスター内のすべてのサーバーを縦棒 (|) で区切って指定してください。

```

<!--<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=manual,rmiUrls="//
<machineA>:40000/campaignApplicationCache|//
<machineB>:40000/campaignApplicationCache|//
<machineA>:40000/userSessionCache|//
<machineB>:40000/userSessionCache"/>
  
```

```
<machineA>:40000/mappingCache
<machineA>:40000/multipartitionOptSessionRunStatusCache
<machineA>:40000/optSessionUserSessionCache
-->
```

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMCacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.uniacorp.Campaign.cache.CampaignCacheEventListenerFactory" />
```

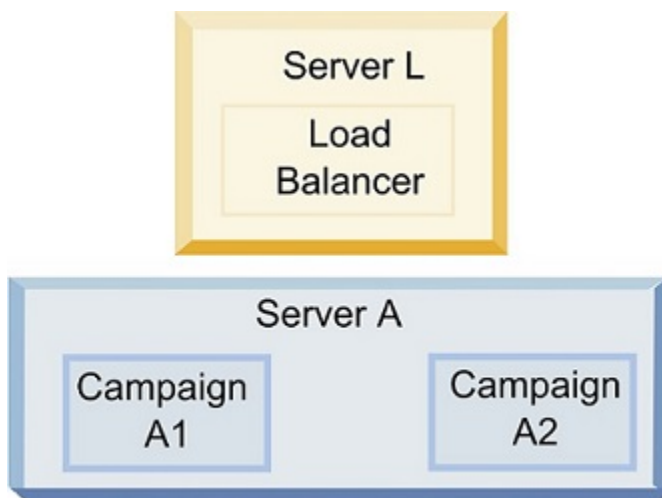
```
<machineA>:40000/mappingCache
<machineA>:40000/multipartitionOptSessionRunStatusCache
<machineA>:40000/optSessionUserSessionCache
-->
```

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMCacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
-->
```

マルチキャストによる ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Unica Campaign システムではマルチキャストを使用します。



<UNICA_HOME>\<CAMPAIGN_HOME>\conf ディレクトリーに移動し、テキスト・エディターで campaign_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集作業を行います。

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

ご使用の環境に反映させるには、multicastGroupAddress および multicastGroupPort の設定をカスタマイズする必要があります。

```
<!--<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=automatic, multicastGroupAddress=230.0.0.1,
multicastGroupPort=4446, timeToLive=32"/>

<cacheManagerPeerListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"/>
-->
```

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.Campaign.cache.CampaignCacheEventListenerFactory" />
-->
```


第 13 章. クラスター化リスナー環境へのアップグレード


Unica Campaign 用の既存の単一リスナー構成をクラスター化リスナー構成にアップグレードする場合は、以下の指示に従ってください。リスナー・クラスターは2つ以上のリスナーのセットで、ロード・バランシングおよび高可用性を提供するユニットとして動作します。Unica Campaign リスナー・クラスターはアクティブ-アクティブで、これは各ノードがロード・バランシング方法を使用して動作するという意味です。各 Unica Campaign リスナーは、フロントエンド・クライアント間のインターフェース (Unica Campaign Web アプリケーションなど) と、バックエンド分析サーバー・プロセスを提供します。

1. [サポートされるクラスター化リスナー構成\(99 ページ\)](#) にリストされている前提条件を満たしていることを確認してください。例えば、共有ファイルの場所が構成済みであり、クラスター内のノードごとに異なるマシンが用意されていることが必要です。
2. [Unica キャンペーンと Unica Optimize のアップグレードの計画\(9 ページ\)](#) の手順に従ってください。
3. [Unica Campaign および Unica Optimize のアップグレード\(17 ページ\)](#) に記載されている資料をよく理解しておいてください。
4. クラスター化リスナー構成にアップグレードするには、以下の指示に従います。

ステップ	説明
A. インストーラーを開始します。	Unica インストーラーを保存したフォルダーに移動して、インストーラーを実行します。これにより、その場所にあるすべての製品インストーラーが起動します (Unica Platform, Unica Campaign)。
B. 必要に応じて Unica Platform をアップグレードします。	まだ行っていない場合は、Platform をアップグレードする画面で必要事項を入力して、「インストール完了」ウィンドウで「完了」をクリックします。
C. Unica Campaign をクラスター化リスナー構成にアップグレードし、オプションで1つ目のリスナーを含めます。	Unica Campaign インストーラーが開きます。このインストーラーでは、クラスター化構成のために Unica Campaign を構成する必要があり、オプションでクラスター内の1つ目のリスナーもアップグレードします。クラスター内の1つのリスナーは既に Unica Campaign サーバー上にインストールされている場合があります。ただし、それ以降のリスナーはそれぞれのスタンドアロン・サーバー上にインストールする必要があります。Unica Campaign をクラスター化リスナー構成にアップグレードするには、以下の画面に入力します。 <ul style="list-style-type: none">• 概要• ソフトウェアのご使用条件• インストール・ディレクトリー• コンポーネント: 希望するオプションを選択し、リスナーをインストールするためのオプションである Unica Campaign サーバーも必ず選択します。• 単一リスナーまたは複数リスナークラスター化リスナー構成 (2つ以上のノード) を選択します。

ステップ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • リスナー・ノード・プロパティ: 「Campaign フローチャートの実行」または「Optimize セッションの実行」または「Campaign フローチャートと Optimize セッションの両方を実行」を選択して Campaign 分析サーバーをインストールし、Campaign または Optimize、あるいはその両方を実行します。 • 以下の画面に入力し、1 つ目のリスナーをアップグレードします。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「共有ネットワークのファイル・ロケーション」。クラスター化リスナー構成では、特定のファイルおよびフォルダーが共有されていて、それらはクラスター内のすべてのリスナーからアクセス可能になっている必要があります。この画面で、共有ファイルのロケーションへのパスを指定します。マップされた Microsoft Windows サーバーのパス (Z:\Campaign_Shared など) またはマウントされた UNIX パス (/mnt/Campaign_Shared など) を使用します。このロケーションは、campaignSharedHome と呼ばれています。 ◦ 「リスナー・ファイルを共有ネットワーク・ロケーションに移動する」。「自動」(推奨) または「手動」を選択します。「自動」を選択した場合、インストーラーはパーティション・データを campaignSharedHome ロケーションにコピーします。「手動」を選択した場合、ユーザーが手動でパーティション [n] データを campaignSharedHome にコピーする必要があります。 ◦ 「リスナー・ノード・プロパティ」。クラスターにインストールするリスナー・ノードごとに、ノードの固有名やノードのネットワークのホストとポートなどのプロパティを指定する必要があります。 ◦ 「マスター・リスナーの優先順位」。優先順位は、リスナー・クラスター内のどのノードがマスター・リスナーで、どのノードをフェイルオーバーの場合に使用するかを決定します。 ◦ 「ロード・バランシングの重みづけ」。重みづけは、他のノードと処理を共有するためにノードがサポートするリスナー・トラフィックの量を決定します。0 以外の値を指定します。0 を指定すると、ノードはリスナー接続を処理しなくなります。
D. アップグレード・プロセスを続行します。	アップグレード・プロセスのこの時点から先は、単一ノードのアップグレードと基本的に同じです。「プリインストール・サマリー」画面

ステップ	説明
	<p>が完了したら、「インストール」をクリックして Unica Campaign とクラスター内の1つ目のリスナー・ノードのアップグレードを完了させます。</p> <p>Unica Campaign インストーラーは、指定されたオプションで実行されます。</p> <p>「リスナー・ファイルを共有ネットワーク・ロケーションに移動」で「自動」を選択した場合、特定のファイルが元のインストール・ディレクトリーから <code>campaignSharedHome</code> ディレクトリー構造に移動します。Unica Campaign 関連オブジェクト (.ses ファイルおよび .dat ファイルなど) は、ローカルのインストール場所ではなく、共有パーティションの場所に配置されるようになります。詳しくは、クラスター化リスナーの共有ネットワーク・ロケーション: campaignSharedHome(101 ページ) を参照してください。</p>
<p>E. acUpgrade ツールを実行します。</p>	<p>acUpgradeTool の実行(28 ページ) の説明に従って acUpgrade ツールを実行し、追加のアップグレード作業を完了させてから続行します。</p>
<p>F. EAR ファイルをデプロイしてパッケージします。</p>	<p>クラスター内の最初のインストーラー・ノードの場合 (メインの Unica Campaign サーバーにインストールします)、EAR ファイルをデプロイしてパッケージする画面がインストーラーに表示されます。これは、単一ノードのインストールの場合と同じです。</p> <p>Unica Campaign を Web アプリケーション・サーバーにデプロイして実行する処理を続けて、リスナーを Unica Campaign サーバーで実行します。</p>
<p>G. クラスターに2つ目のノードをインストールします。</p> <p> 重要: それぞれのリスナー・ノードは、別々</p>	<p>まだ行っていないければ、Unica マスター・インストーラーと Unica Campaign インストール用ファイルを、次の Unica Campaign インストーラー・ノードを実行するサーバーにコピーし、マスター・インストーラーを起動します。</p>

ステップ	説明
<p>のマシンにインストールする必要があります。</p>	<p>マスター・インストーラーで、Unica Platform データベースに接続するために必要な情報を入力します。その際、インストール済みの 1 つ目のリスナーと同じようにします。同じクラスター内の各リスナーは、同じマスター・インストーラー構成を使用する必要があります。</p> <p>Unica Campaign インストーラーが表示されたら、以下に説明するように画面に入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 概要 • ソフトウェアのご使用条件 • インストール・ディレクトリー • Campaign コンポーネント: 「Campaign サーバー」のみを選択します。このシステム上にも、リスナーをインストールするためです。 • 単一リスナーまたは複数リスナークラスター化リスナー構成 (2 つ以上のノード)を選択します。 • 以下の画面に入力し、2 つ目のリスナーをインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「共有ネットワークのファイル・ロケーション」。クラスター化リスナー構成では、特定のファイルおよびフォルダーが共有されていて、それらはクラスター内のすべてのリスナーからアクセス可能になっている必要があります。この画面で、共有ファイルのロケーションへのパスを指定します。マップされた Microsoft Windows サーバーのパス (Z:\Campaign_Shared または \\hostname.example.com\Campaign_Shared など) またはマウントされた UNIX パス (/mnt/Campaign_Shared など) を使用します。 <p> 注: ここで入力する値は、クラスター内のすべてのリスナーで同じである必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「リスナー・ノード・プロパティ」。クラスターにインストールするリスナー・ノードごとに、ノードの固有名称やノードのネットワークのホストとポートなどのプロパティを指定する必要があります。 ◦ 「マスター・リスナーの優先順位」。優先順位は、リスナー・クラスター内のどのノードがマスター・リスナーで、どのノードをフェイルオーバーの場合に使用するかを決定します。 ◦ 「ロード・バランシングの重みづけ」。重みづけは、他のノードと処理を共有するためにノードがサポートするリスナー・トラフィックの量を決定します。0 以外の値を指定します。0 を指定すると、ノードはリスナー接続を処理しなくなります。 <p>インストール・プロセスのこの時点から先は、単一ノードのインストールと基本的に同じです。「プリインストール・サマリー」画面が完成したら、「インストール」をクリックして Unica Campaign とく</p>

ステップ	説明
I. クラスターに後続の各ノードをインストールします。	2つ目のリスナー・ノードのインストール時に行った手順を、インストールする追加ノードごとに繰り返します。各ノードは、別々のシステムにインストールすることにご注意ください。インストールが完了したら、各ノードでリスナーを開始します。
J. この手順は、「手動」アップデートを行った場合にのみ必要です。	<p>「自動」アップデートを行った場合は、この手順は飛ばしてください。</p> <p>「リスナー・ファイルを共有ネットワーク・ロケーションに移動」で「手動」を選択した場合、上述の説明に従って <code>campaignSharedHome</code> フォルダー構造をセットアップし、必要なファイルをローカルのインストール・ディレクトリーから <code>campaignSharedHome</code> にコピーします。</p>
K. 構成設定を調整し、Webアプリケーション・サーバーおよびリスナーを再始動します。	<p>Unica Campaign にログインし、以下の構成プロパティを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Campaign campaignClustering:enableClustering を TRUE に設定します。 • Campaign campaignClustering:campaignSharedHome を、アップグレード時に指定した共有ネットワークのファイル・ロケーション (<code>campaignSharedHome</code>) に設定します。 <p>構成プロパティについては、「Unica Campaign 管理者ガイド」に説明されています。</p> <p>Web アプリケーション・サーバーとリスナーを必ず再始動してください。</p>

これで、クラスター化リスナー構成へのアップグレードが完了しました。

サポートされるクラスター化リスナー構成

このトピックは、クラスター化リスナー構成に関するものです。

Unica Campaign リスナー・クラスター構成の前提条件および要件は以下のとおりです。


- リスナーは、物理ホスト・マシンごとに1つだけです。
- クラスター化リスナーのすべてのバックエンド・マシンは、同じタイプのオペレーティング・システムで稼働している必要があります。
- クラスター化リスナーのすべてのバックエンド・マシンには、同じバージョンの Unica Campaign がインストールされている必要があります。
- 共有ネットワーク・ロケーション (`campaignSharedHome`) が設定されており、リスナー・ノードのインストールを予定している各物理ホスト・マシンからアクセス可能でなければなりません。これは、リスナー・ノードのインストール前に設定する必要があります。

- listenerType --Campaign リスナーがクラスター・モードでインストールされている場合、ListenerType は、リスナーが Campaign フローチャートを実行するのか、または Optimize セッションを実行するのか、あるいはその両方を実行するのかを決定する重要な役割を果たします。
 - ListenerType - 1 - Campaign フローチャートのみ実行します
 - ListenerType - 2 - Optimize セッションのみ実行します
 - ListenerType - 3 - Campaign フローチャートと Optimize セッションを実行します

これらの listenertype は、Campaign リスナーのインストール中に選択されたオプションに基づいて設定されます。ユーザーは、これらの値をいつでも切り替えてアプリケーションを再起動し、これを反映することができます。

リスナー・クラスタリングの図

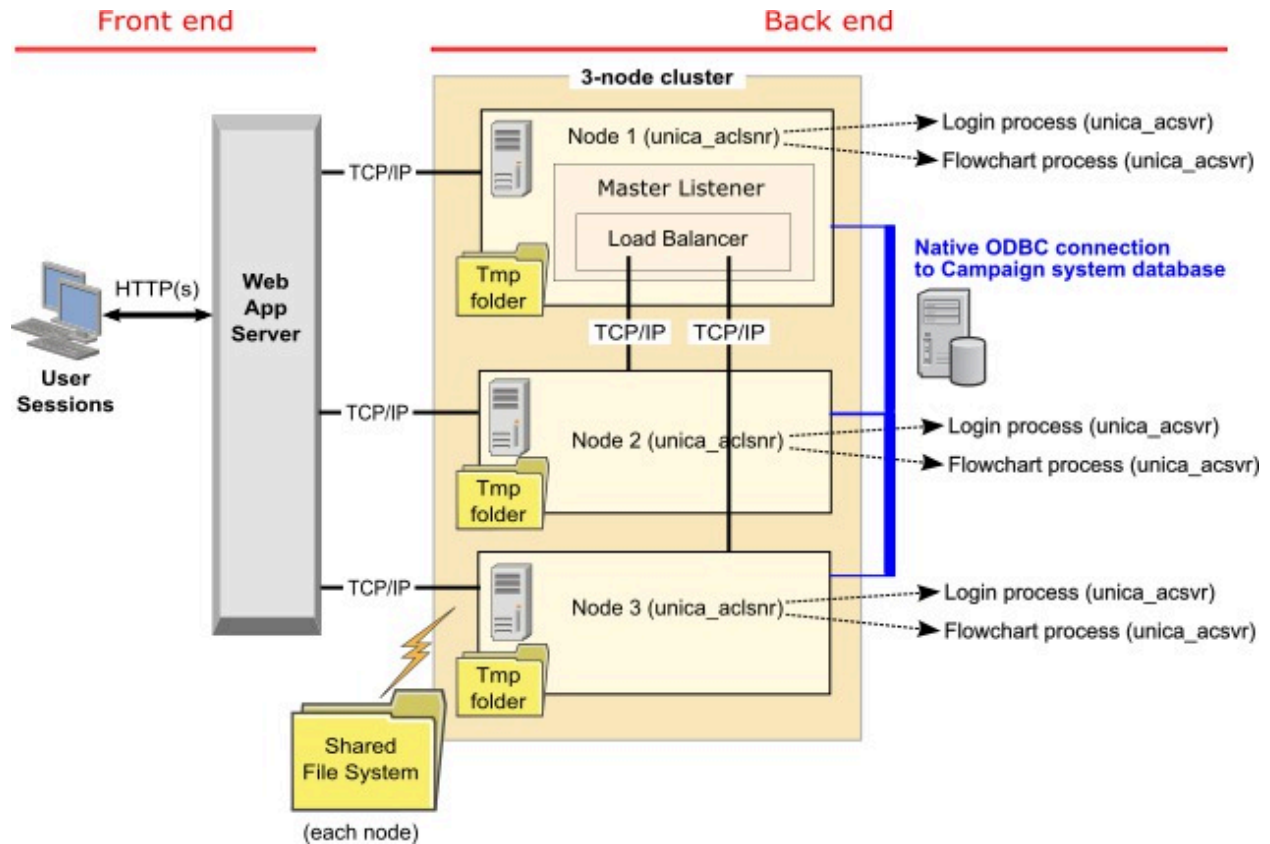
この図は、3 ノード・リスナー・クラスター構成を説明するものです。

 **注:** 以下に、コンポーネントの大きな概要をまとめています。詳細は、個々のトピックに記載しています。

クラスターは複数のリスナー・ノードで構成されます。各ノード (unica_aclsnr) は別個の物理マシン上にあり、ノードごとに Unica Campaign システム・データベースに対する固有の ODBC 接続があります。単一ノード構成では、各 unica_aclsnr プロセスが、ログインおよびフローチャート用の追加のバックエンド・プロセスを作成します。

各ノードには、バックエンド・ユーザー・データベース (図には示されません) に対する接続もあります。

クラスター化構成では、1つのノードがマスター・リスナーとして動作します。マスター・リスナーのジョブは、着信要求を各ノードに分散することにより、ロード・バランシングを実行することです。Unica Campaign Web アプリケーションは、TCP/IP 経由でクライアント要求を送信し、ロード・バランサー・コンポーネントは TCP/IP 経由でクラスター化ノードと通信します。すべてのノードは、ネットワーク・ファイル・システムを共有するので、共有ファイルにアクセスできます。さらに、ノードごとに独自のローカル一時フォルダーと、共有されないそれ独自のファイル・セットを保持します。



クラスター化リスナーの共有ネットワーク・ロケーション: campaignSharedHome

Unica Campaign のクラスター化リスナー構成は、クラスター内のすべてのリスナーが特定のファイルおよびフォルダーを共有し、それらにアクセスできることを必要とします。したがって、共有ファイル・システムを設定しなければなりません。

要件

- 共通域は、リスナー・クラスター内の他のすべてのマシンがアクセスできるマシンまたはロケーションのいずれであっても構いません。
- クラスター内の各リスナーは、共有ファイルおよびフォルダーに対するフルアクセス権限を保持している必要があります。
- ベスト・プラクティスは、すべてのリスナーを同じネットワークに配置し、そのネットワークに共有ホームも配置し、待ち時間の問題を回避することです。

- 単一障害点を回避するには、共有ファイル・システムで、ミラーリングされた RAID またはそれに相当する冗長メソッドを使用します。
- 単一リスナー構成をインストールする場合、将来リスナー・クラスターを実装することが決定しているときには、共有ファイル・システムがベスト・プラクティスになります。

共有ファイルおよびフォルダー

クラスター化構成では、すべてのリスナーが以下に示すフォルダー構造を共有します。共有ロケーション (<campaignSharedHome>) はインストール時に指定され、「**Campaign|campaignClustering|campaignSharedHome**」で構成可能です。共有パーティションには、すべてのログ、キャンペーン、テンプレート、およびその他のファイルが含まれます。

```
campaignSharedHome
|-->/conf
|-----> activeSessions.udb
|-----> deadSessions.udb
|-----> etc.
|-->/logs
|-----> masterlistener.log
|-----> etc.
|-->/partitions
|-----> partition[n]
|-----> {similar to <Campaign_home> partition folder structure}
```

共有されないファイルおよびフォルダー

各 Unica Campaign リスナーは、<Campaign_home> 下に、共有されない一連のフォルダーおよびファイルを持ちます。Campaign_home は、Unica Campaign アプリケーションのインストール・ディレクトリーを表す環境変数です。この変数は、cmpServer.bat (Windows™) または rc.unica_ac.sh (UNIX™) で設定されます。パーティションはローカル・リスナーに固有です。各ローカル・パーティション・フォルダーには、フローチャート実行中の一時ファイル用の tmp フォルダーと、テーブル・マネージャーのキャッシュ・ファイル用の conf フォルダーが含まれます。

```
Campaign_home
|-->/conf
|-----> config.xml
|-----> unica_aclsnr.pid
|-----> unica_aclsnr.udb
|-----> etc.
|-->/logs
|-----> unica_aclsnr.log
|-----> etc.
|-->/partitions
|-----> partition[n]
|-----> /tmp
|-----> /conf
|-----> {other files specific to the partition}
```